

朝霞市開発事業等の手続及び基準等に関する 条例・同施行規則に関する技術基準等

<技術指導編>


- 第1章 敷地面積の最低限度の技術基準（開発建築課）
- 第2章 道路・歩道・反射鏡の整備、寄附採納の技術基準
（道路整備課・まちづくり推進課）
- 第3章 下水道の技術基準（下水道施設課）
- 第4章 上水道の技術基準（水道施設課）
- 第5章 公園等の技術基準（みどり公園課）
- 第6章 緑化の技術基準（みどり公園課）
- 第7章 電波障害の技術基準（環境推進課）
- 第8章 ごみ集積所の技術基準（資源リサイクル課）
- 第9章 朝霞市掲示板の技術基準（シティ・プロモーション課）

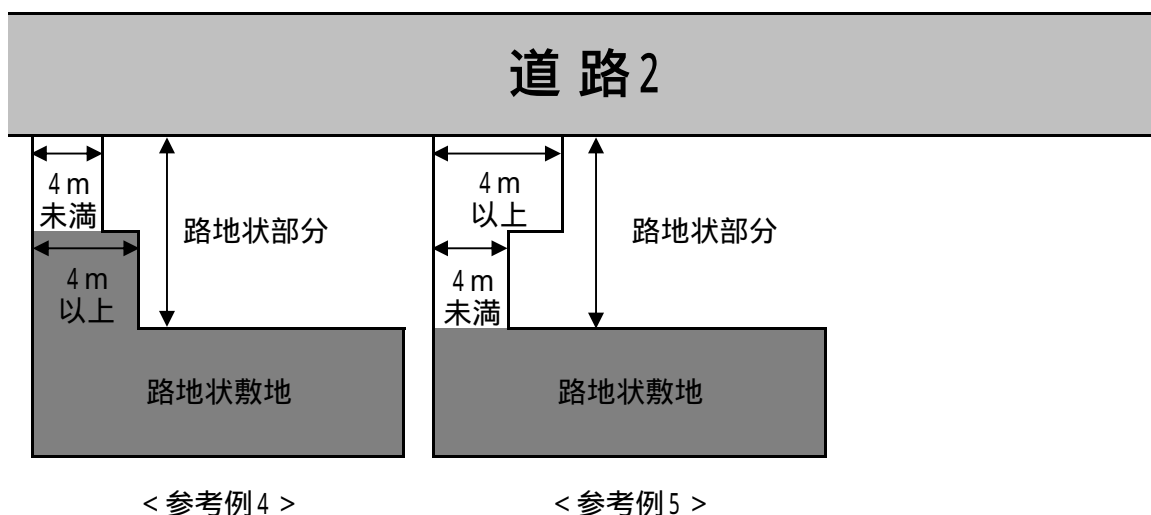
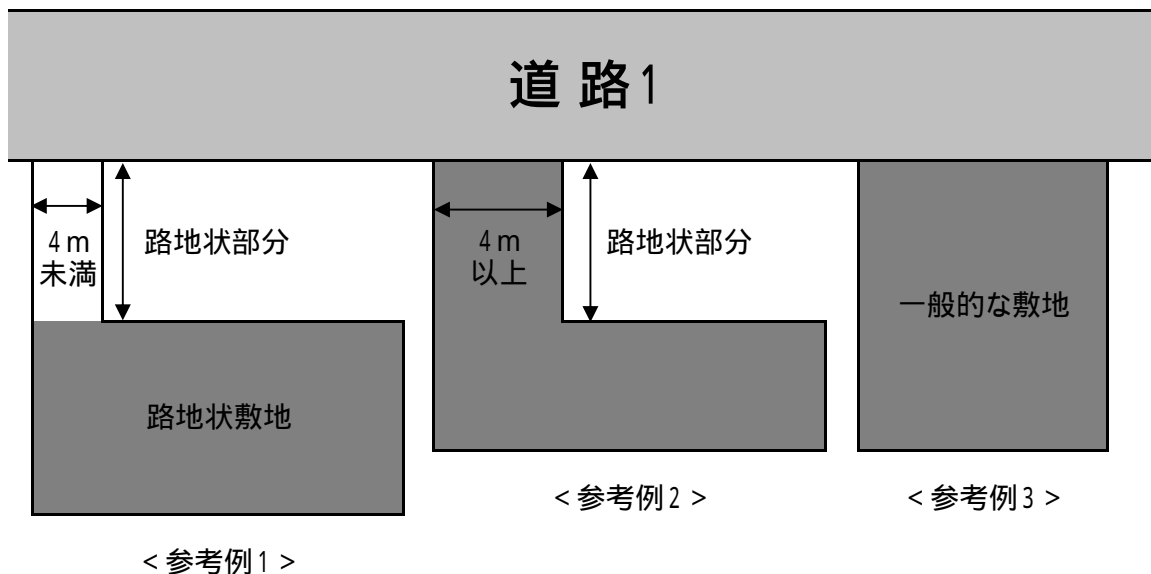
令和8年4月1日版

朝霞市 都市建設部 開発建築課

第1章 敷地面積の最低限度の技術基準

1区画当たりの敷地面積は、有効で100㎡以上とする。
ただし、路地状部分によって道路に接する敷地の場合、幅員が4m未満の路地状部分にあっては、その部分を含まないで、100㎡以上の面積を確保するものとする。

 この部分で100㎡以上を確保すること。また幅員は最低2m必要となります。

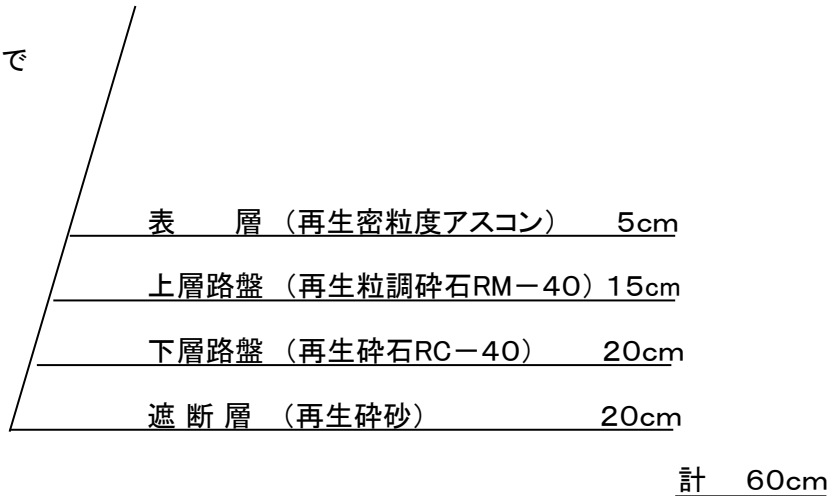


ただし、公共施設の規模の拡大等により住宅の敷地を縮小する場合、又は事業区域の形状若しくは公共施設の配置の状況等によりやむを得ない場合はこの限りでない。

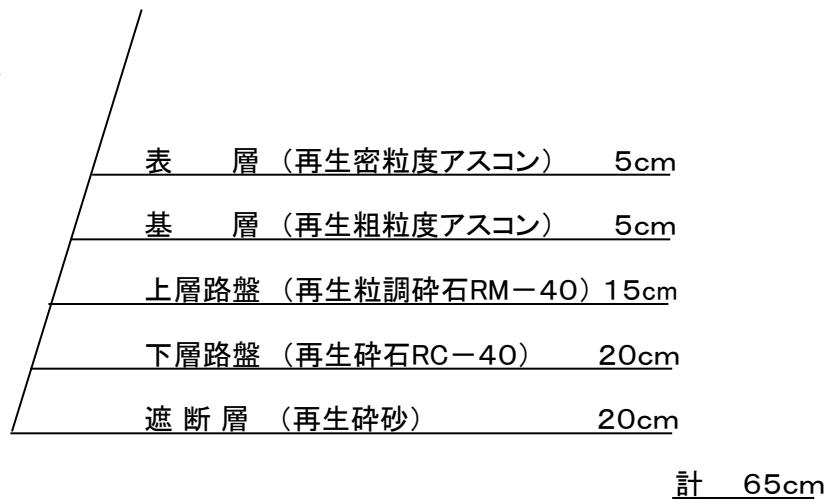
第2章 道路・歩道・反射鏡の整備、寄附採納の技術基準

標準断面図

道路幅員 4.2mまで



道路幅員 4.2m超
6mまで



道路幅員 6.0m超



重要路線

表層 (改質アスコンⅡ型)	5cm
中間層 (再生密粒度アスコン)	5cm
基層 (再生粗粒度アスコン)	5cm
上層路盤 (再生粒調碎石RM-40)	30cm
下層路盤 (再生碎石RC-40)	20cm
遮断層 (再生碎砂)	20cm
計	85cm

歩道

表層 (密粒度アスコン-13)	4cm
再生粒調碎石(RM-40以下)	10cm
再生切込碎石(RC-40)	5cm
計	19cm

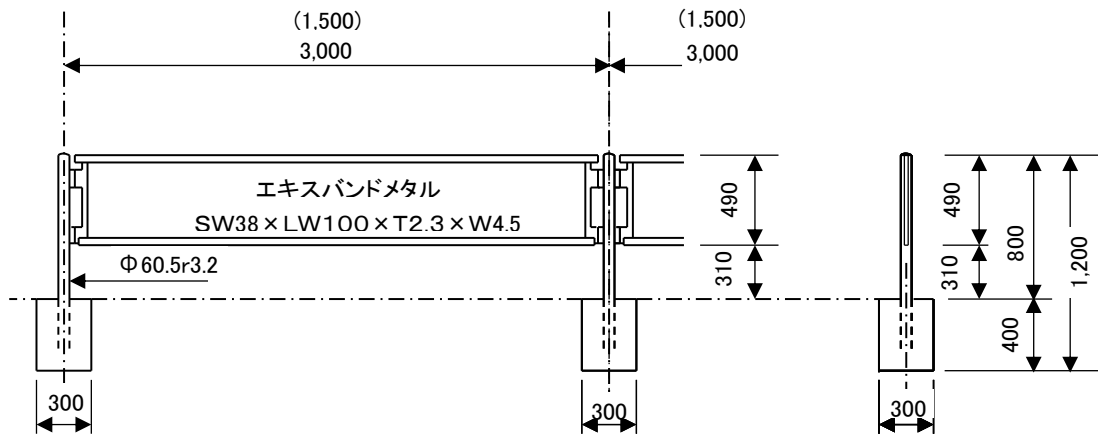
透水性歩道

表層 (透水性アスコン)	4cm
再生切込碎石(RC-40)	10cm
再生碎砂	5cm
計	19cm

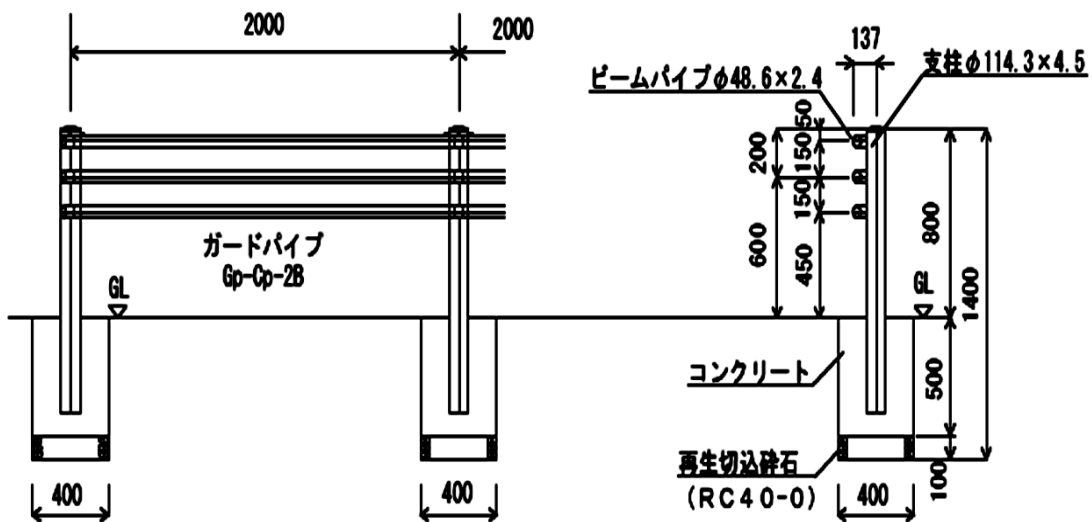
切下歩道
(車輛乗入)

表層 (密粒度アスコン-13)	5cm
再生粒調碎石 (RM-40以下)	20cm
再生切込碎石 (RC-40)	20cm
計 45cm	

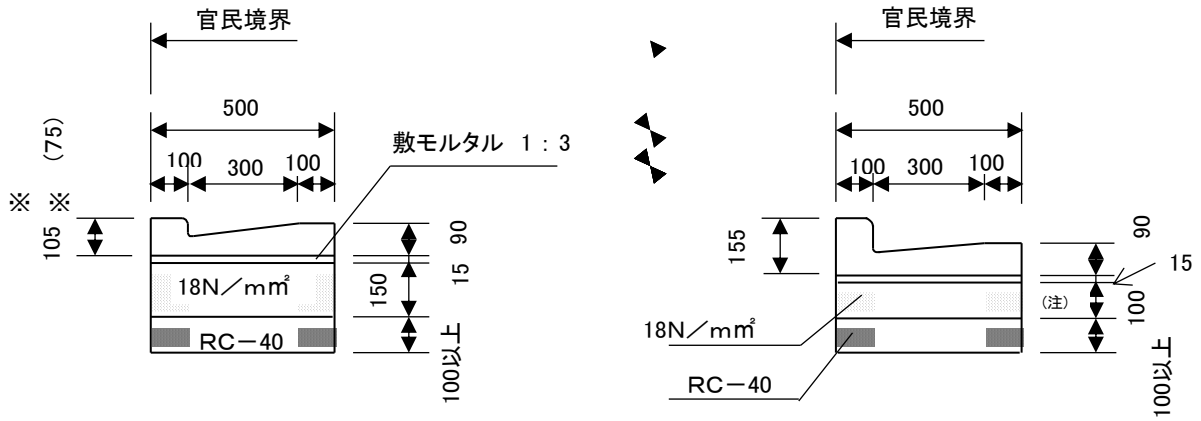
エキスバンド型横断防止用柵標準図



歩車道境界用車両用防護柵標準図 (ガードパイプ)



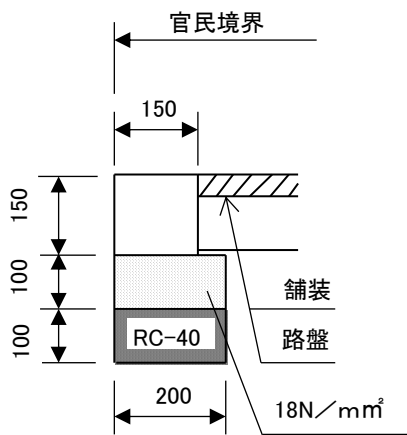
鉄筋コンクリートL形工(300)



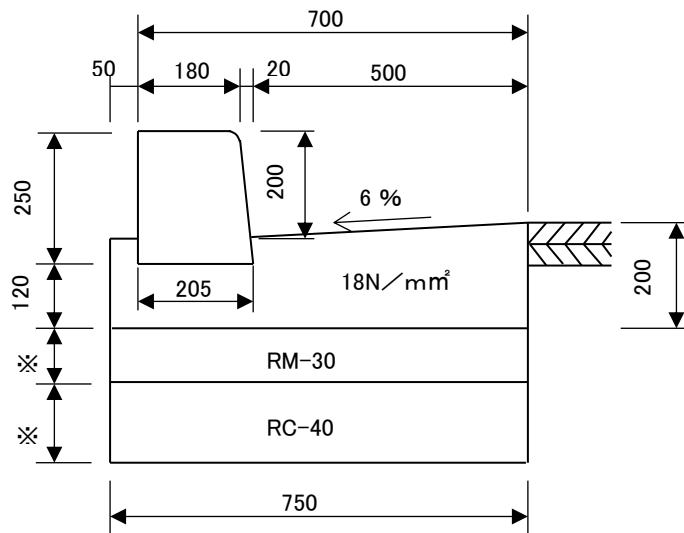
(注) 道路幅員 6m以上については、コンクリート厚は15cm以上とする。

※※ 中高層建築物及び開発による道路、倉庫等の出入り口部については、プレキャストL形を使用するものとする。

地先境界工

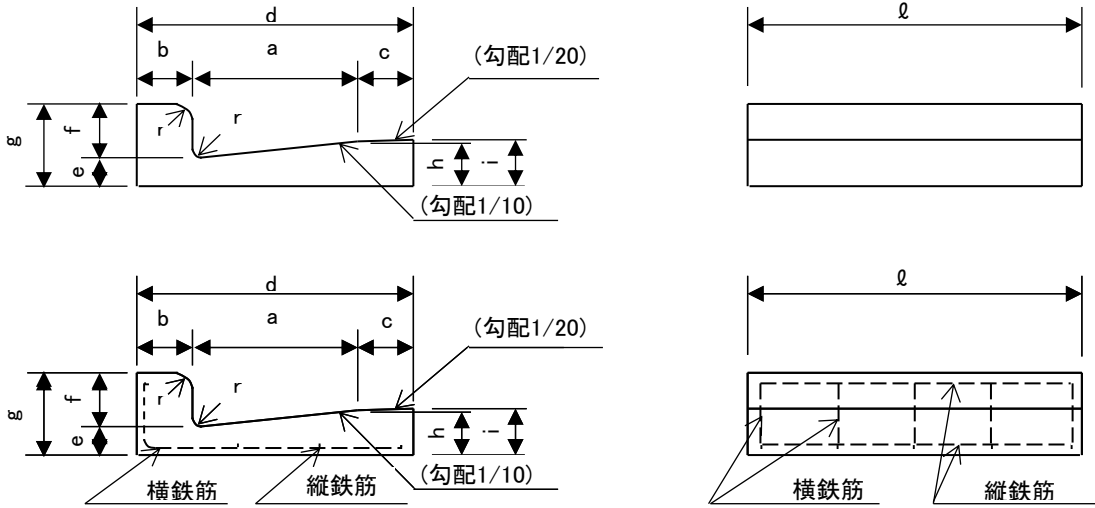


歩車道境界工



※ 街渠下面の構造は、車道と同一構造とする。

鉄筋コンクリートL形(B)

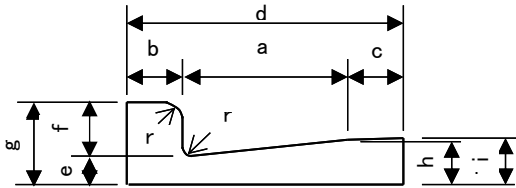


(単位: m/m)

呼び名	寸 法											縦筋		横筋		重量 (kg)
	a	b	c	d	e	f	g	h	i	r	θ	径	本	径	本	
300b	300	100	100	500	55	100	155	85	90	20	600	4	5	4	6	65

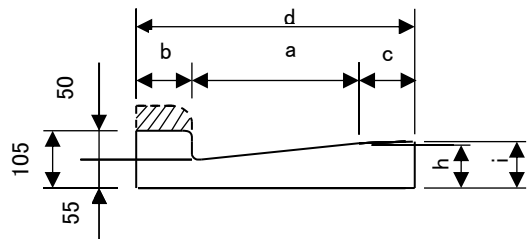
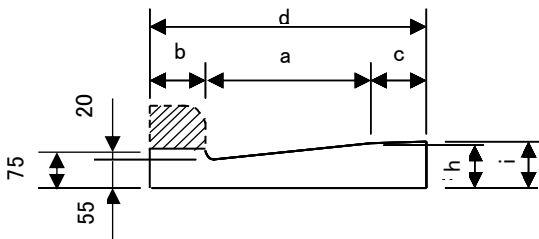
コンクリート及び鉄筋コンクリートL形(異形)

B 形



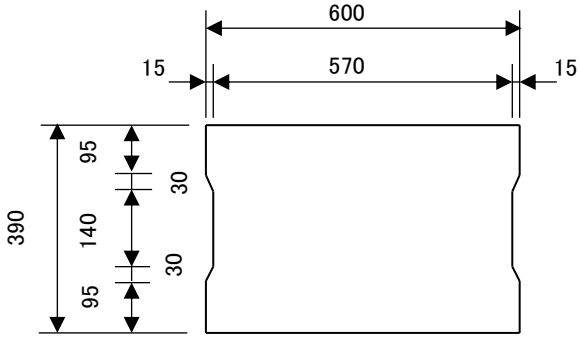
歩行者横断用及び車いす乗り入れ用

F 形

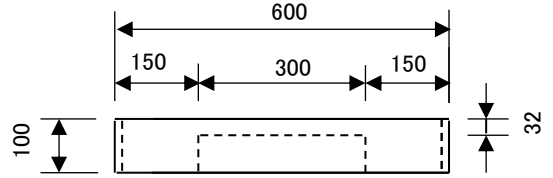
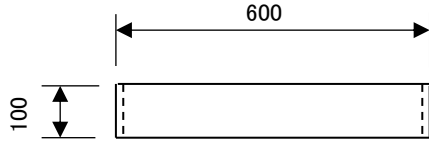
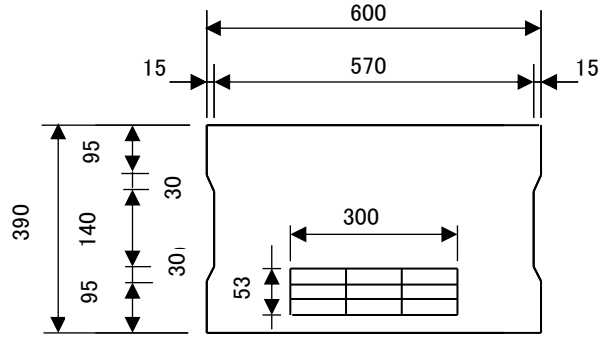


鉄筋コンクリート埼玉型甲蓋

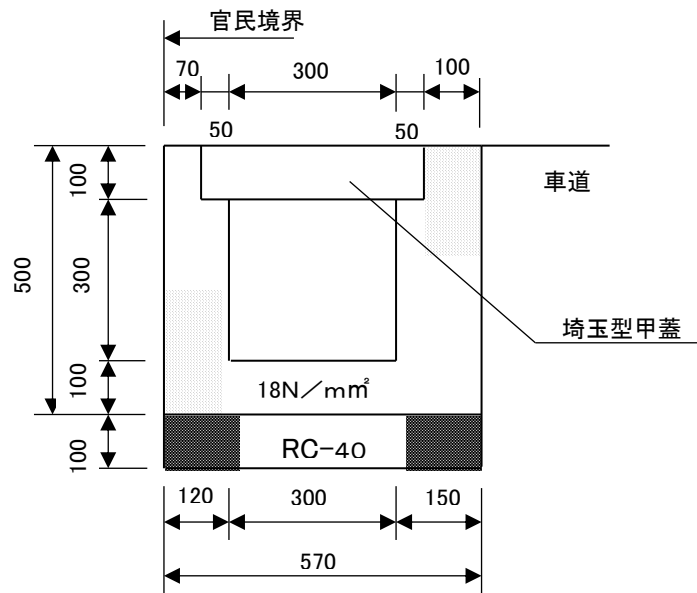
甲蓋(普通型)手掛付



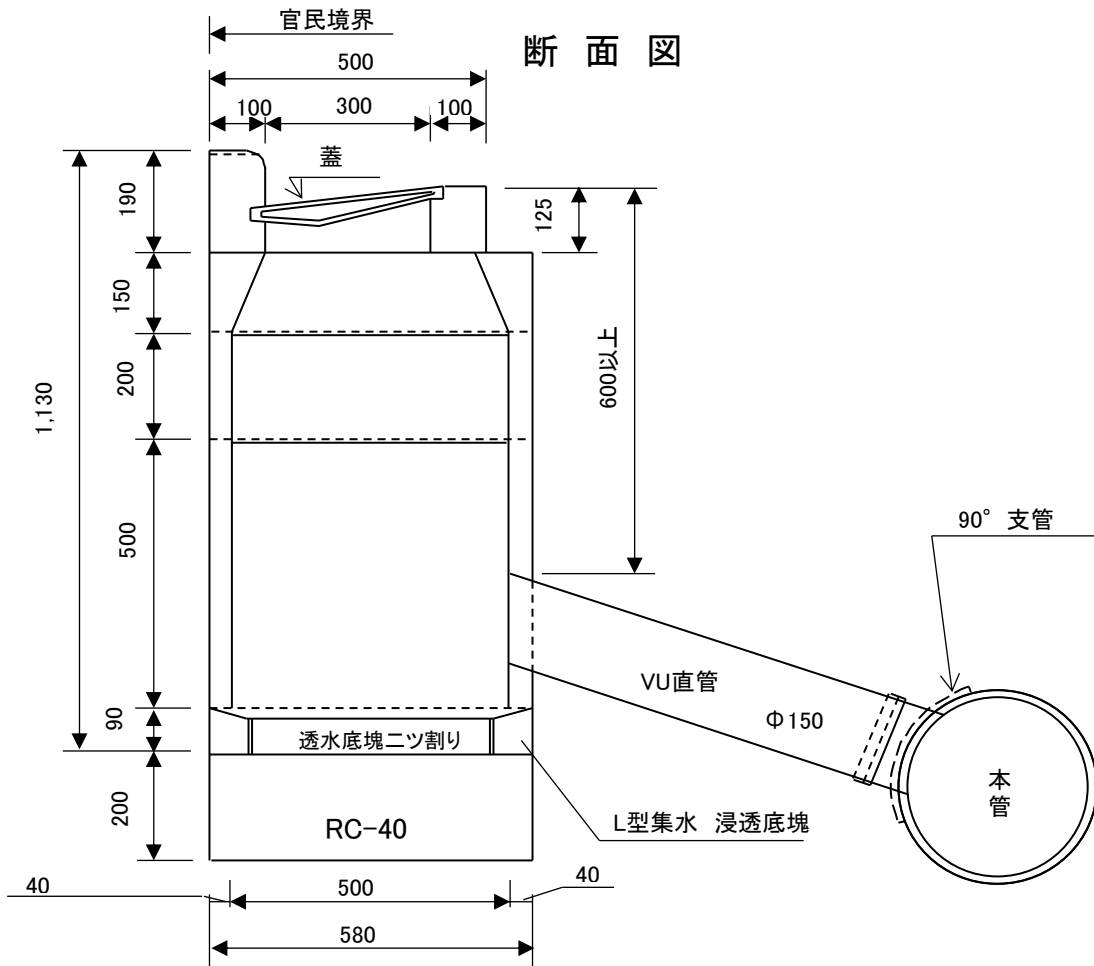
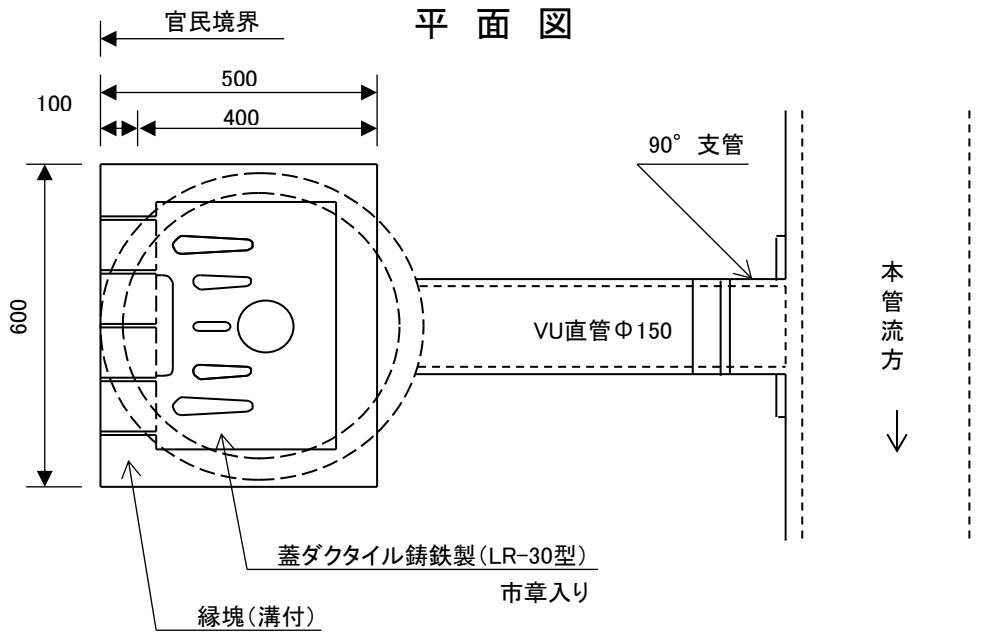
甲蓋(網付)手掛付



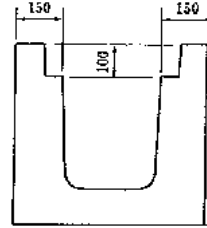
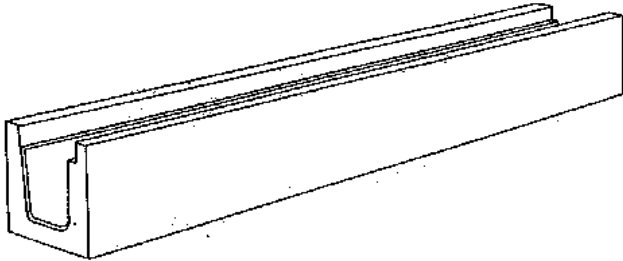
コンクリート側溝



雨水枡(L形用)取付詳細図



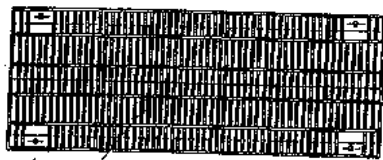
ロ シ グ U 埼玉県型



150×150
単 造 用
(横断用)

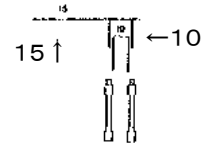
■ 横断U形用グレーチング

T-25以上

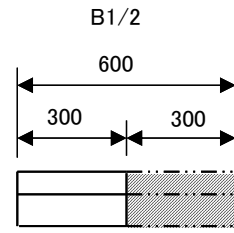
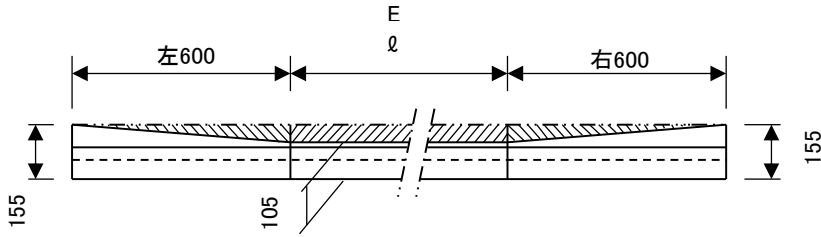


ゴムキャップ

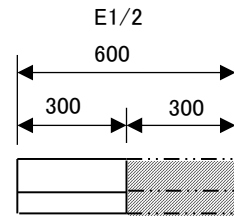
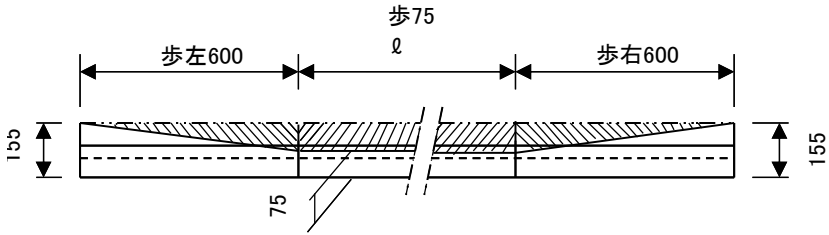
● 細 目 (ノンスリップ)




車乗り入れ部左右

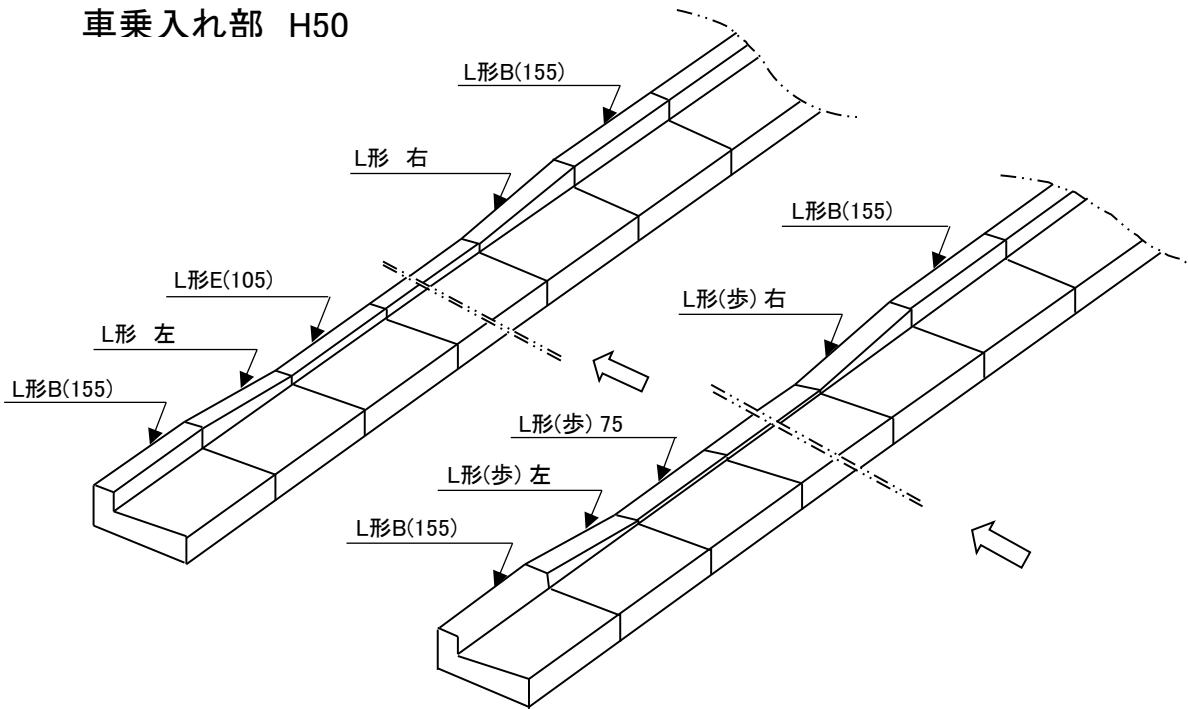


歩行者横断部左右



 斜線の部分を控除した製品の呼び名

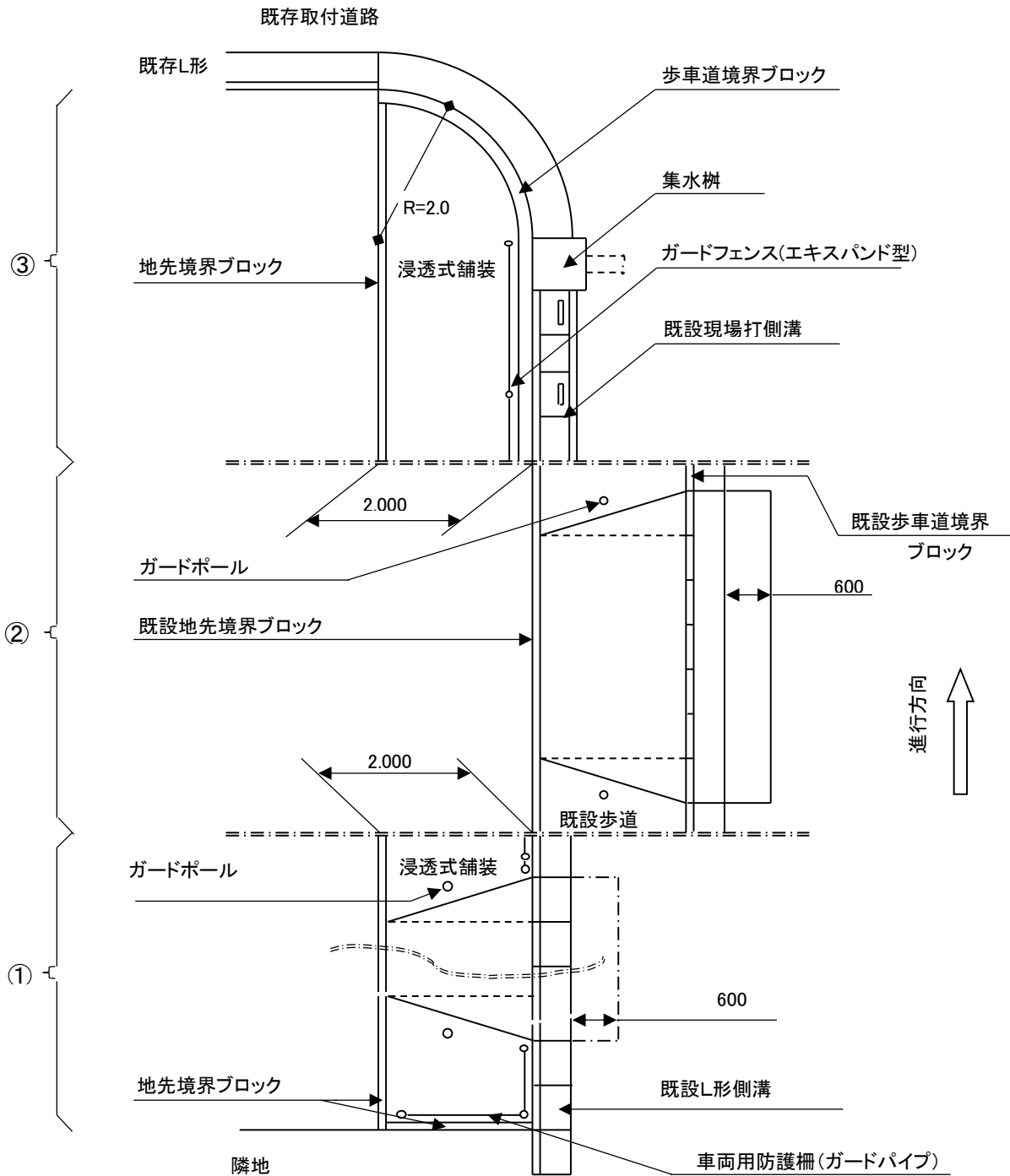
車乗入れ部 H50



歩行者横断及び車いす乗入れ用 H20

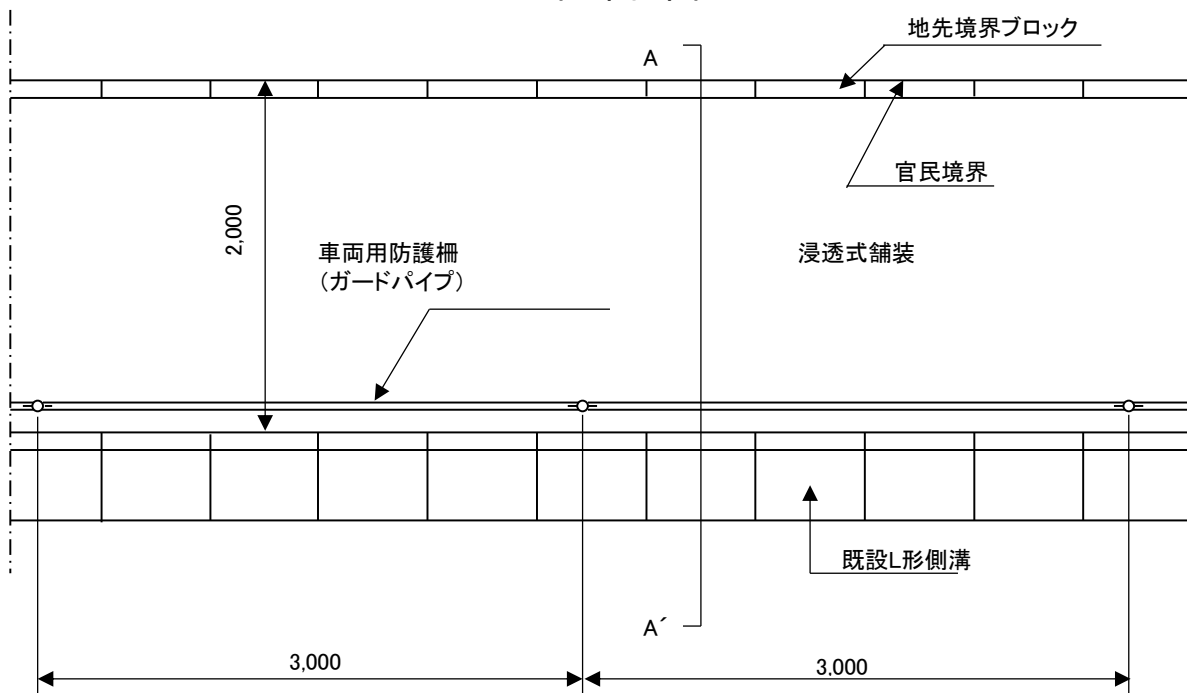
平面図 (参考)

- ① 既設前面道路がL形側溝の場合。
- ② 既設前面道路に歩道(マウンドアップ)が設置してある場合。
- ③ 既設前面道路が現場打側溝の場合。

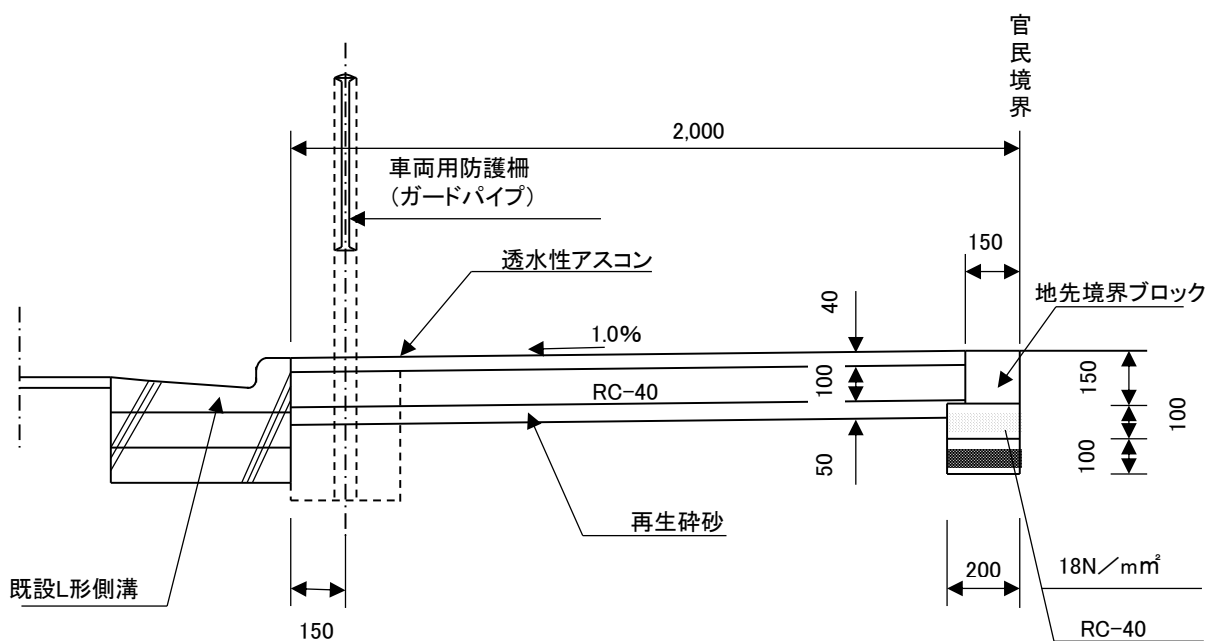


①既設前面道路がL型側溝の場合

平面図

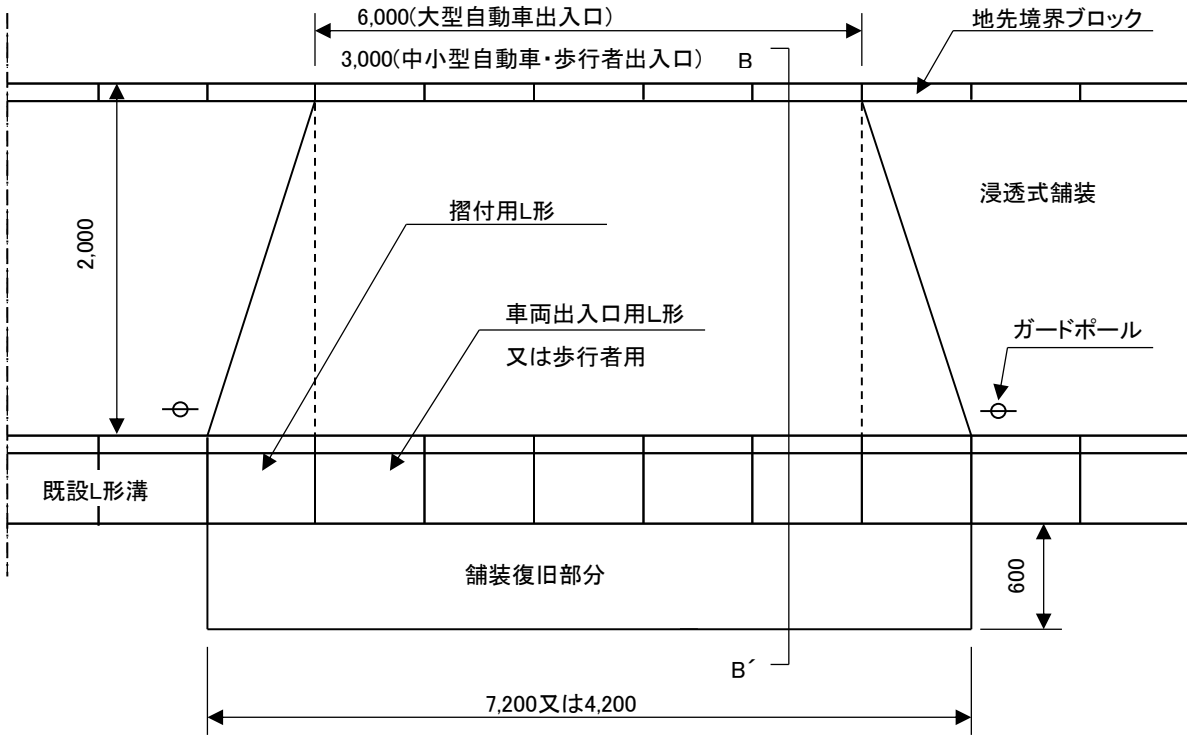


A-A'断面図



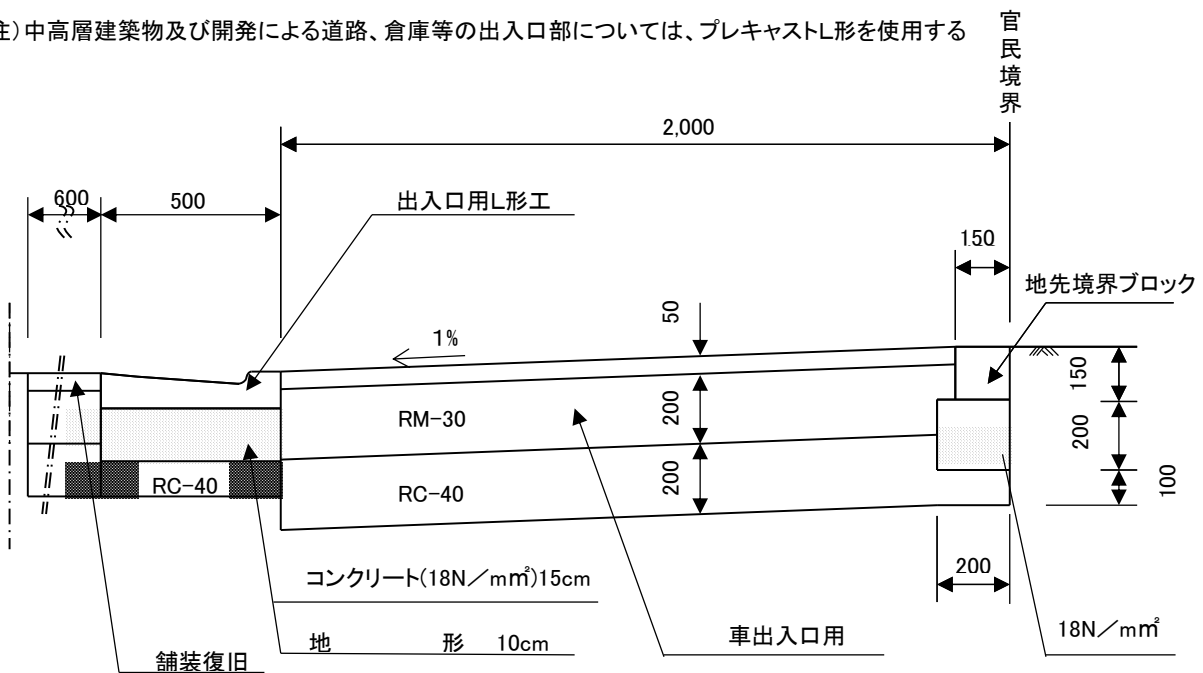
①既設前面道路がL型側溝の場合(切り下げ)

平面図



B-B'断面図

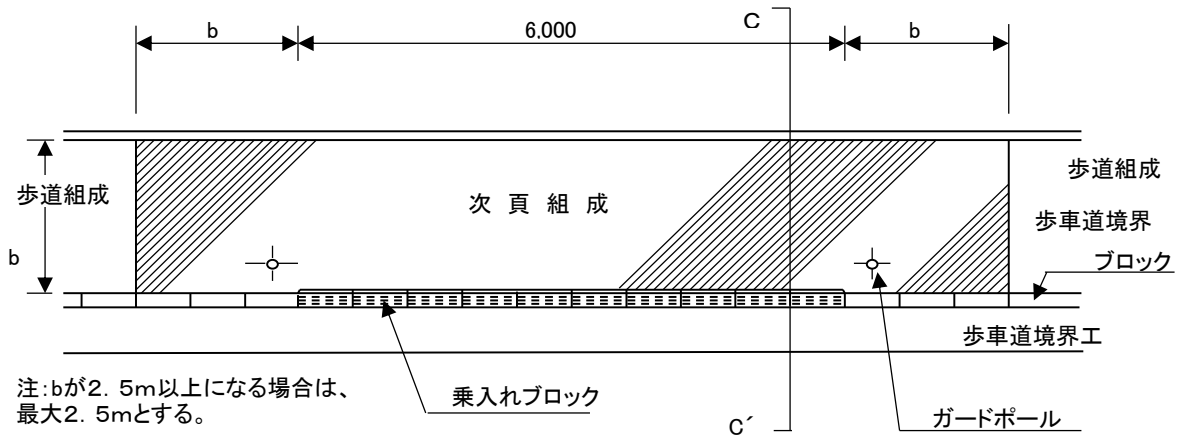
(注) 中高層建築物及び開発による道路、倉庫等の出入口部については、プレキャストL形を使用する



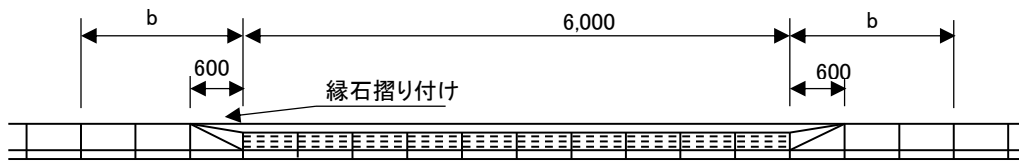
②既設前面道路に歩道(マウンドアップ)が設置してある場合(切り下げ)

1)大型自動車の出入口の場合

平面図

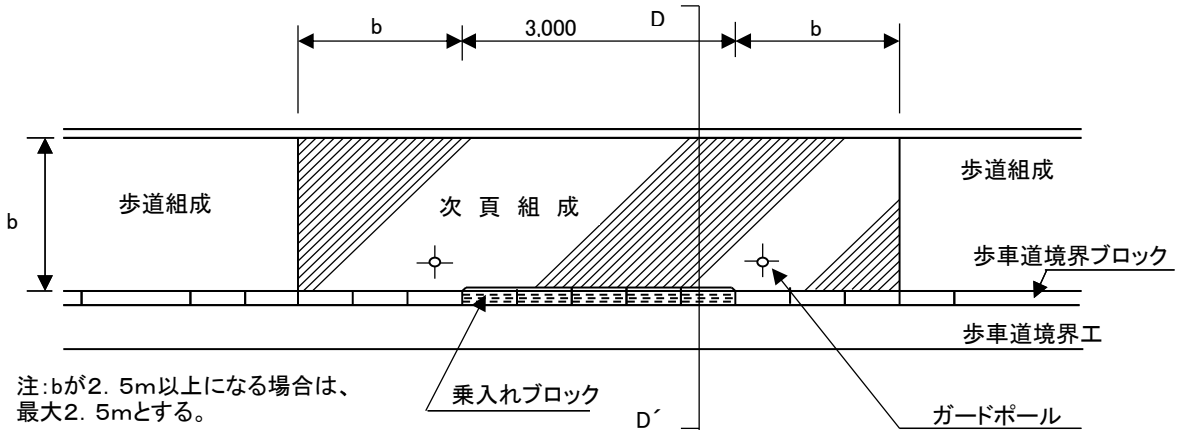


正面図

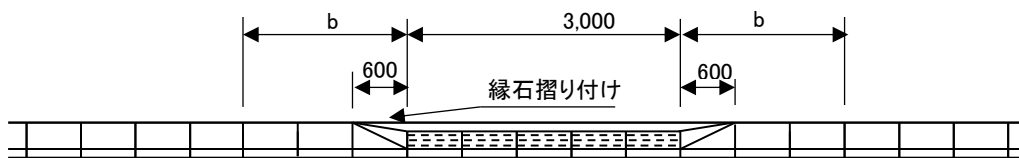


2)中小型自動車の出入口の場合

平面図

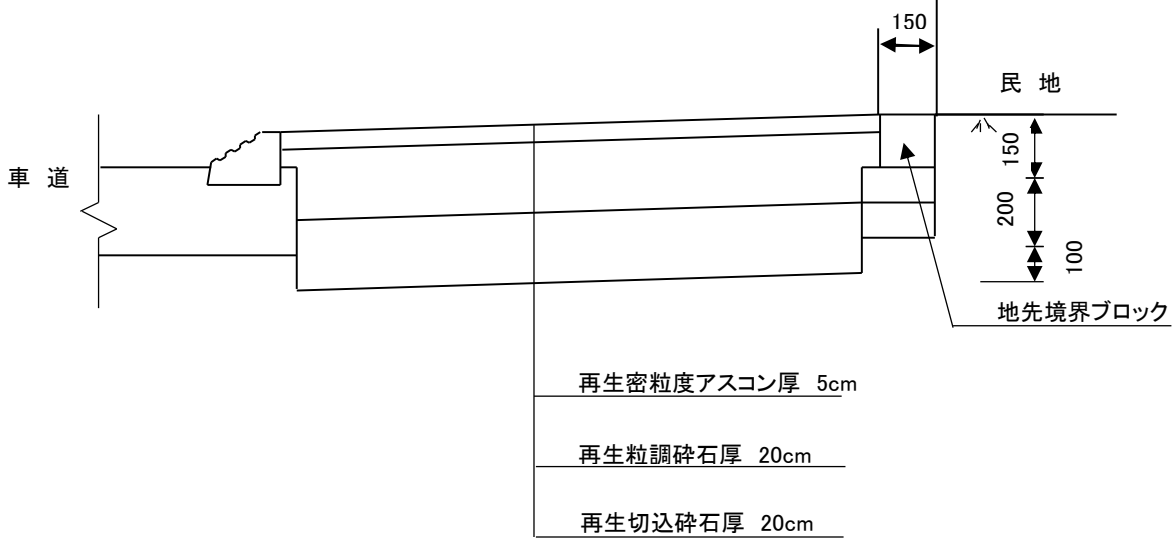


正面図

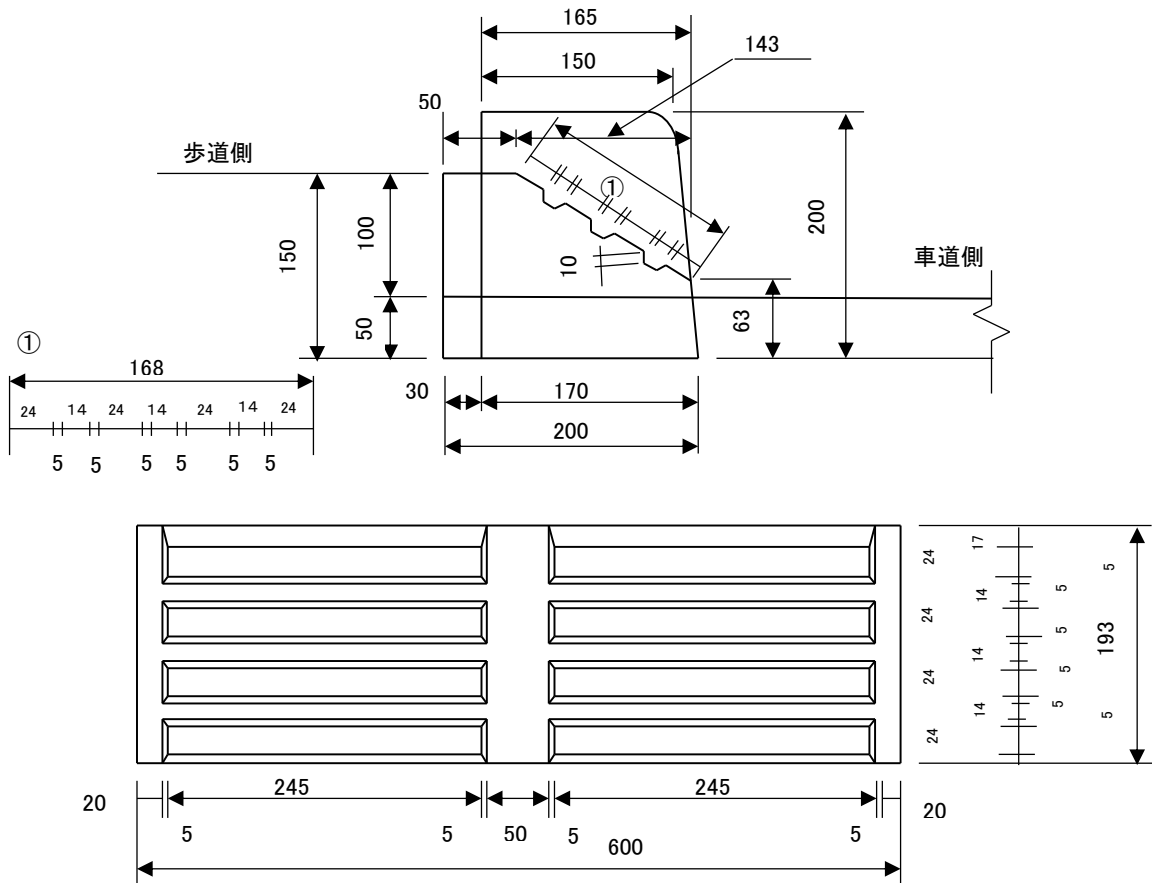


3) 大型、中小型自動車の出入り口の横断構造

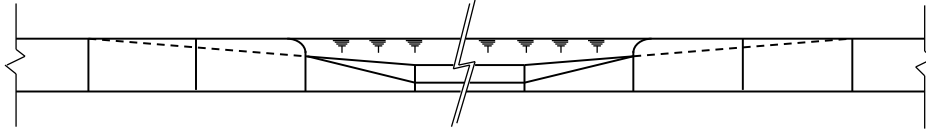
C-C'・D-D'断面図



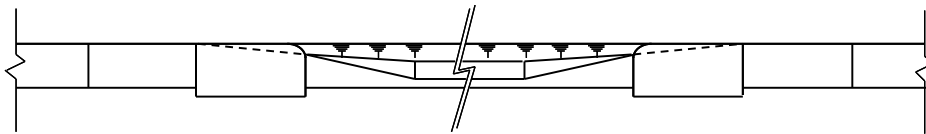
4) 乗り入れブロックの構造



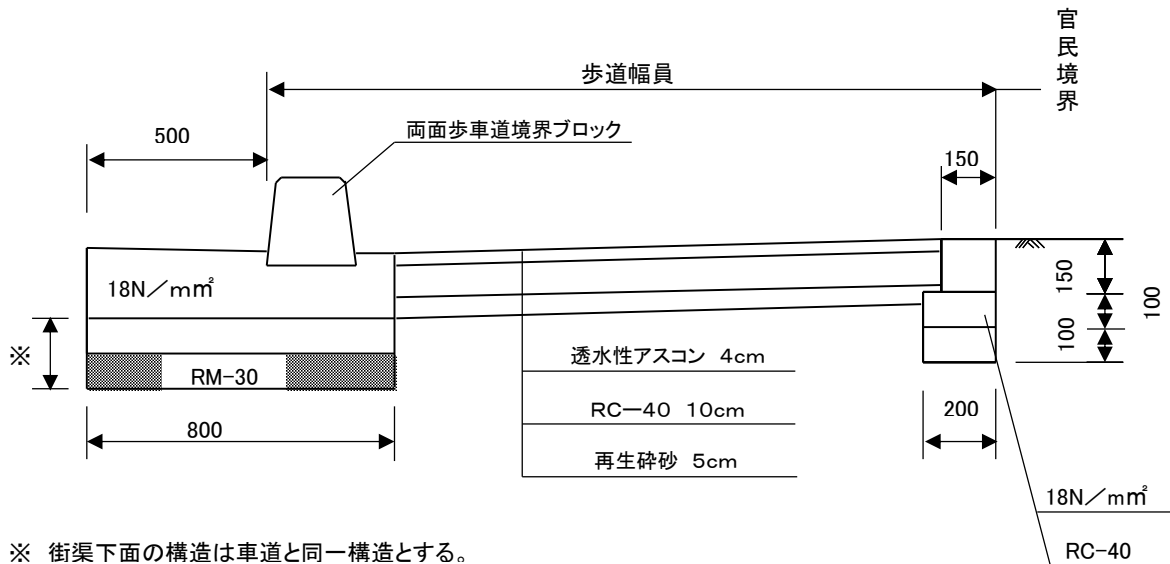
(歩車道境界ブロック高30cmの場合)



(歩車道境界ブロック高25cmの場合)

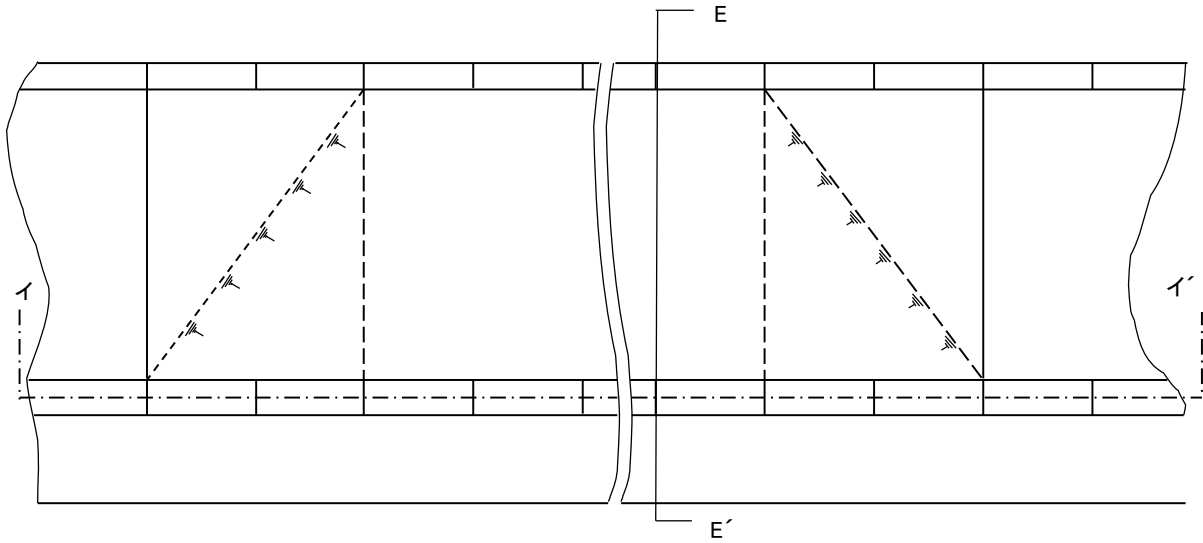


歩道フラット標準型

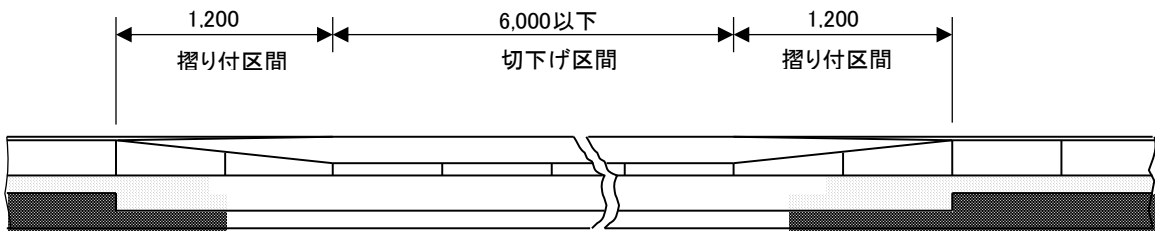


②既設前面道路に歩道(マウンドアップ)が設置してある場合(重車両切り下げ)

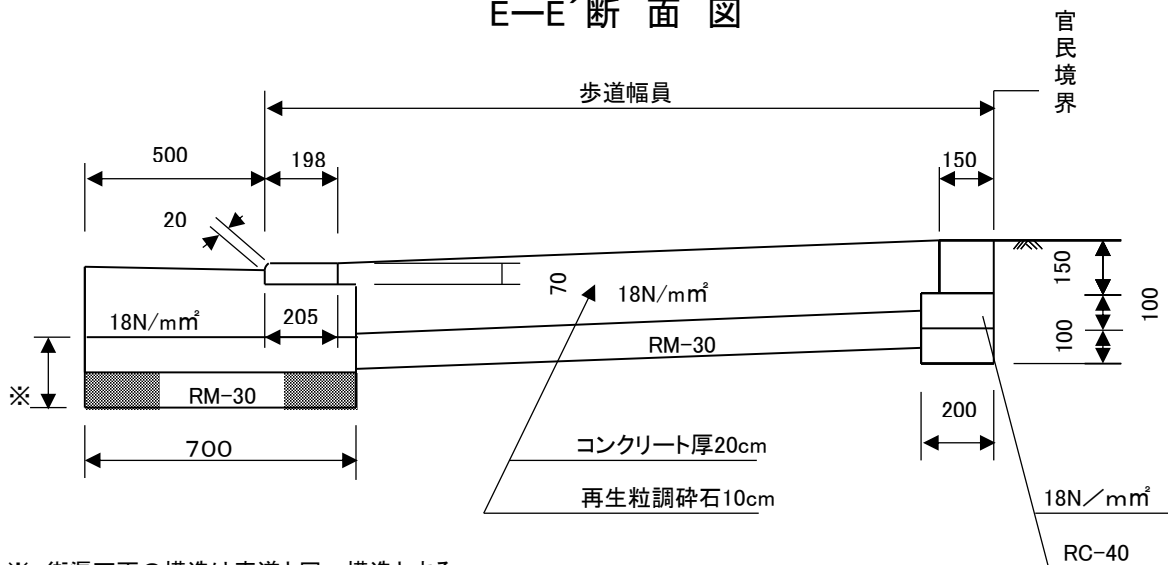
平面図



イーイ'断面図



E-E'断面図



※ 街渠下面の構造は車道と同一構造とする。

道路照明灯寄附申請書

年 月 日

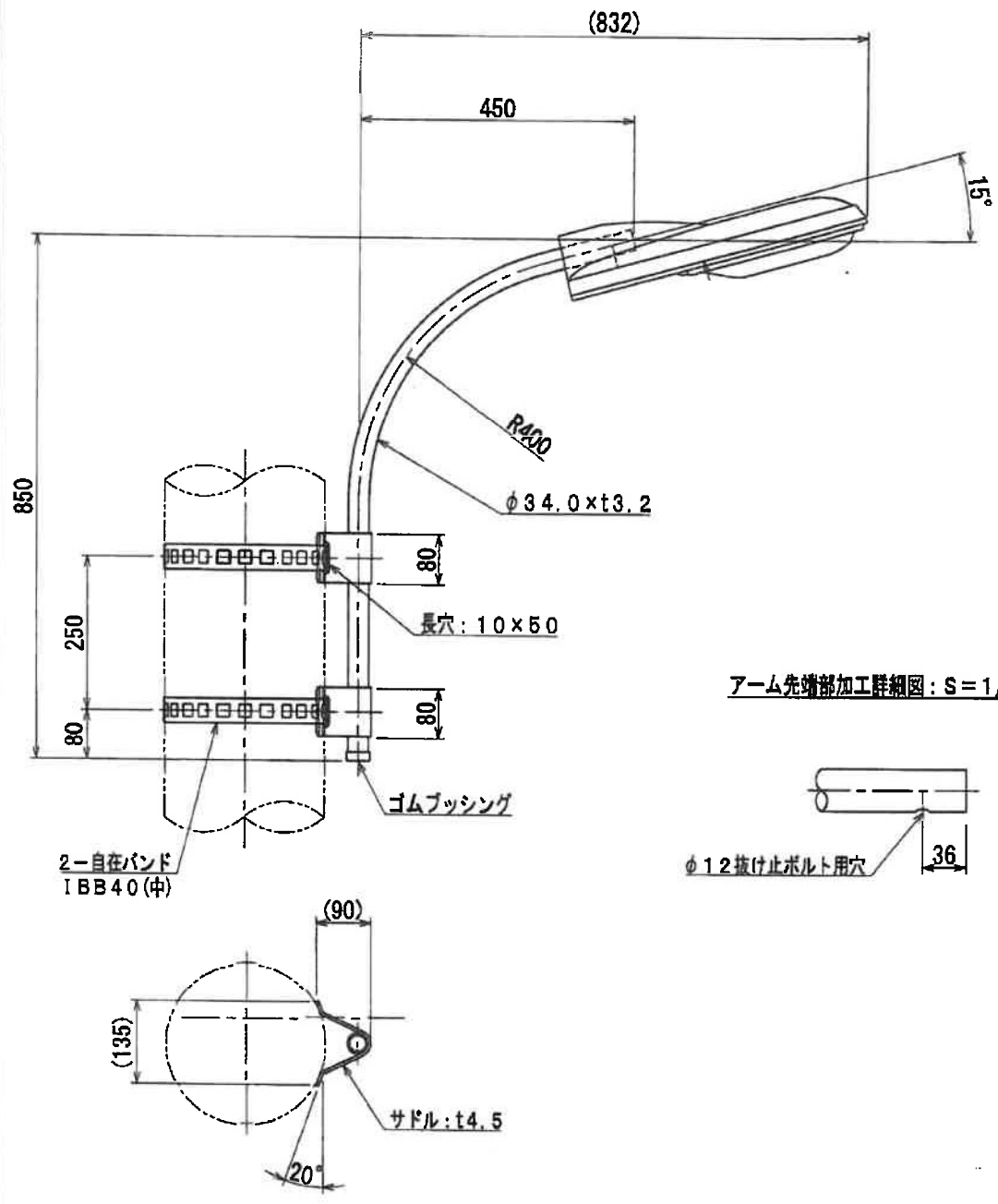
朝霞市長 宛

事業者住所
事業者名 印
連絡先
担当

朝霞市開発事業等の手続き及び基準等に関する条例に基づき、下記のとおり道路照明灯を設置しましたので寄附いたしたく申請いたします。

記

- 道路照明灯基W
(内東電供架柱 基・独立柱 基)
- 設置場所 朝霞市
- 電柱番号
.....
- 添付書類 案内図、設置箇所平面図、※電気代領収書



アーム先端部加工詳細図：S=1/5

仕上：溶融亜鉛めっき後S34-442色塗装

200915

6						品名	電柱共架アーム							
5														
4														
3														
2					重量						単位	mm	尺度	1/10
1					図番									
部番	部品名	材質	材厚	数	備考	図番								



登記原因証明情報・承諾書

注 4

1 当事者及び不動産

(1) 当事者 権利者 (甲) 朝霞市
 義務者 (乙) (土地所有者名をご署名下さい)

(2) 不動産の表示 朝霞市

所 在	地 番	地 目	地積 (m ²)
	注 3		

2 登記の原因となる事実又は行為

(1) 乙は、甲に対し、 年 月 日、本件不動産を〇〇〇〇〇した。
 注 1 注 2

(2) よって、本件不動産の所有権は、同日、乙から甲に移転した。

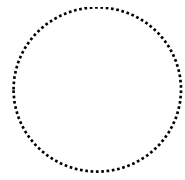
3 所有権移転登記に関する承諾

上記のとおり相違ありませんので、私は、朝霞市に本件不動産の所有権移転の登記を
 することを承諾します。

年 月 日
 (記入しないで下さい) 住 所 (土地所有者住所をご署名下さい) 注 4
 氏 名 (土地所有者名をご署名下さい) 実印

注 1 「原因年月日」=①公共施設の管理に関する協議書の場合は、工事完了公告年月日の翌日となります。
 ②建設に係る覚書の場合は、工事完了検査年月日の翌日となります。
 注 2 「登記原因」=①公共施設の管理に関する協議書の場合は、「都市計画法第40条第2項の規定により帰属」となります。
 ②建設に係る覚書の場合は、「寄附」となります。
 注 3 「不動産の表示」=分筆登記完了前の場合は、予定地番で記入して下さい。
 注 4 実印を全部で2箇所を押印して下さい。
 注 5 持分がある場合は、氏名の後に割合について記載して下さい。

登記原因証明情報・承諾書



1 当事者及び不動産

(1) 当事者 権利者 (甲) 朝霞市
義務者 (乙) _____

(2) 不動産の表示

所 在	地 番	地 目	地積 (m ²)

2 登記の原因となる事実又は行為

(1) 乙は、甲に対し、 年 月 日、本件不動産を した。
(2) よって、本件不動産の所有権は、同日、乙から甲に移転した。

3 所有権移転登記に関する承諾

上記のとおり相違ありませんので、私は、朝霞市に本件不動産の所有権移転の登記を
することを承諾します。

年 月 日

住 所 _____

氏 名 _____ 印

道路反射鏡寄附申請書

年 月 日

朝霞市長 宛

事業者住所
事業者名
連絡先
担当

印

朝霞市開発事業等の手続及び基準等に関する条例に基づき、下記の施設を設置しましたので寄附いたしたく申請します。

記

1. 道路反射鏡（カーブミラー）

一面鏡	φ 6 0 0 ・ φ 8 0 0	共架・独立	基
二面鏡	φ 6 0 0 ・ φ 8 0 0	共架・独立	基

2. 設置場所 朝霞市

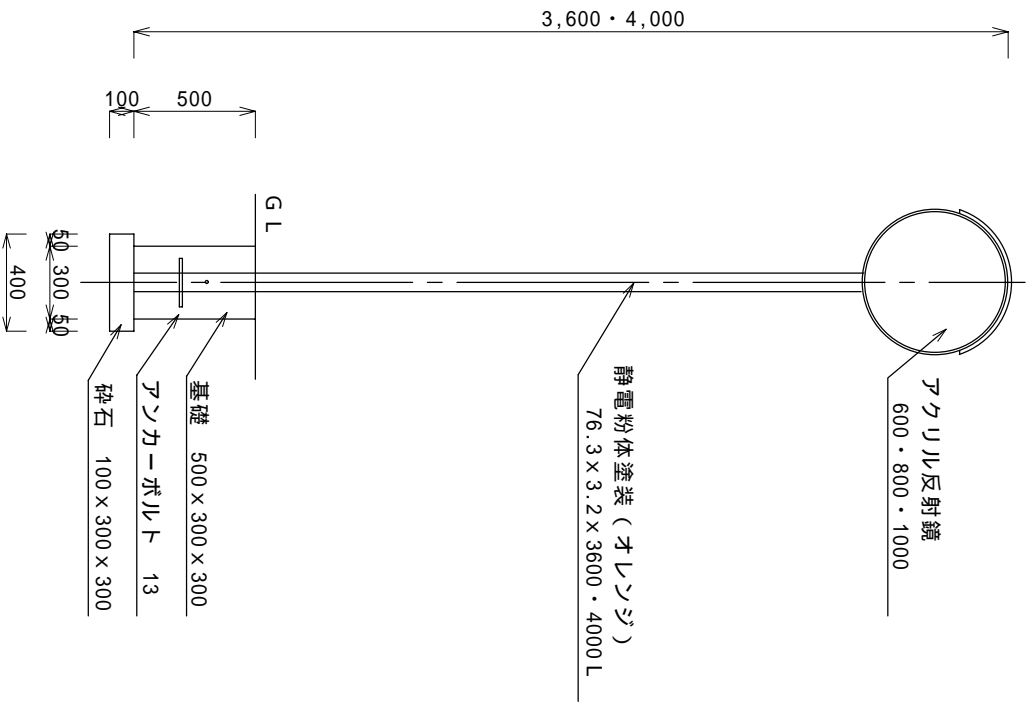
添付書類

- ① 案内図
- ② 配置図（土地利用計画図等に設置場所・電柱番号明示）
- ③ 構造図（市標準構造図と同一の場合不要）

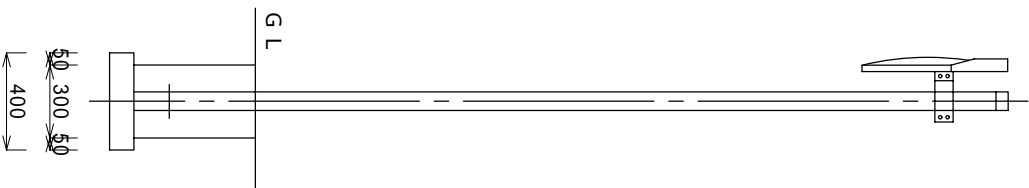
標準構造図

片面式

正面図

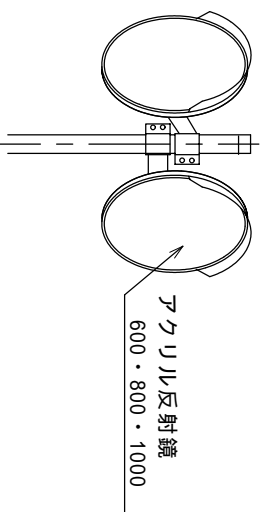


側面図

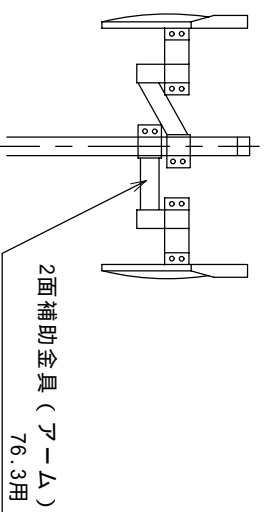


両面式

正面図



取付部



工 種	柱（オレジン）	基礎寸法
600S	76.3 × 3.2 × 4000L	500 × 300 × 300
600W	76.3 × 3.2 × 4000L	500 × 300 × 300
800S	76.3 × 3.2 × 4000L	500 × 300 × 300
800W	76.3 × 3.2 × 4000L	500 × 300 × 300
1000S	76.3 × 3.2 × 4000L	500 × 300 × 300

第3章 下水道の技術基準

1. 雨水排水計画

- (1) 雨水排水量は、開発区域内の雨水排水量及び開発区域外から流入する雨水量を考慮したものでなければならない。
- (2) 雨水排水量の計算方法は、次の式(式1)により算出されたものでなければならない。

$$Q = \frac{1}{360} C \cdot I \cdot A \quad (\text{式1})$$

Q : 雨水排水量 (m³/Sec)
C : 流出係数
I : 降雨強度 (mm/h)
A : 集水面積 (ha)

- ① 流出係数Cは、次の基準による。

不浸透面・道路面等	0.95
透水性アスコン等	0.50
浸透面の芝生・砂利面等	0.30

- ② 降雨強度Iは、次の数値を用いること。

$$I = \frac{5000}{10 + 40} = 100$$

2. 汚水排水計画

- (1) 汚水量の算定基礎となる原単位は、市の公共下水道計画における原単位を使用しなければならない。

生活排水量原単位

項目	排水量原単位 (ℓ/人・日)	使用例
日平均	340	使用料の徴収等
日最大	440	貯留槽設計等
時間最大	660	自然勾配による管路の設計等

- (2) 予定建築物が工場等で多量の排出が予想されるものにあつては、用途・規模等に応じた適正な排水量が算定されているものでなければならない。
- (3) 排水施設の容量は、時間最大汚水量で算定されているものでなければならない。
- (4) 管渠の流下量は Manning 公式で計算されているものでなければならない。
- (5) 汚水量の処理対象人員の算定は、「建築物の用途別による屎尿浄化槽の処理対象人員算定基準」(JIS A 3302-2000)を基本とする。
- (6) 開発区域内の排水計画は、原則として市の下水道計画に合致した流下方向としなければならない。
また、排水設備の構造等は下水道条例に従うものとしなければならない。

3. 排水設備の構造等

- (1) 管渠の最小径及び流速は、次のとおりとしなければならない。

項目	最小径	流速
污水管	200mm	毎秒0.6m以上3.0m以下
雨水管	250mm	毎秒0.8m以上3.0m以下

※ 布設する管渠の諸元については下水道施設課と協議すること。

- (2) 管径が変化する場合、又は2本の管渠が合流する場合の接合方法は、原則として管頂接合又は水面接合としなければならない。
- (3) 人孔深2m以上及び雨水本管が合流する人孔に設置する人孔蓋にはロック付き転落防止用はしごを設置しなければならない。また、原則として中間スラブを設置しなければならない。
- (4) 人孔蓋は飛散防止のため圧力解放型と蝶番式及び不法投棄防止のため鍵付とする。
道路のカーブや交差点付近及び傾斜地に人孔を取り付ける場合は耐スリップ機能付き人孔蓋を設置しなければならない。
- (5) 吐口の位置及び構造は、放流する河川の管理者と事前に十分協議して決定しなければならない。
- (6) 吐口は放流先の河川、水路等の護岸施設および河床を損なわない構造にしなければならない。
- (7) 人孔の間隔は、次のとおりとしなければならない。

管渠口径別の人孔の最大の間隔

管渠径(mm)	600以下	1,000以下	1,500以下	1,500超
最大間隔(m)	75	100	150	200

- (8) 断面決定における余裕率は、次のとおりとしなければならない。

(污水管)

管渠の内径(mm)	余裕
700未満	計画下水量の100%
700以上1,650未満	計画下水量の50%以上100%以下
1,650以上3,000以下	計画下水量の25%以上50%以下

(雨水管)

原則、余裕率を考慮しないものとする。

4. 排水設備の規格

- (1) 排水設備の管径及び勾配は、次表を基準とする。

[污水]

排水人口(人)	管径(mm)	勾配
150未満	100以上	100分の2以上
150以上300未満	125以上	100分の1.7以上
300以上500未満	150以上	100分の1.5以上
500以上	200以上	100分の1.2以上

[雨水]

排水面積(m ²)	管径(mm)	勾配
200未満	100以上	100分の2以上
200以上400未満	125以上	100分の1.7以上
400以上600未満	150以上	100分の1.5以上
600以上1,500未満	200以上	100分の1.2以上
1,500以上	250以上	100分の1以上

- (2) 管の内径は、100mm以上としなければならない。ただし延長が3m以下のものは75mmとすることができる。

- (3) 始点、会合点、勾配及び方向の変化点には、柵を設置すること。
- (4) 排水管の延長が、その管径の120倍を超えない範囲内でなければならない。
- (5) 柵の内径又は内のり及び深さは、次表を基準とする。

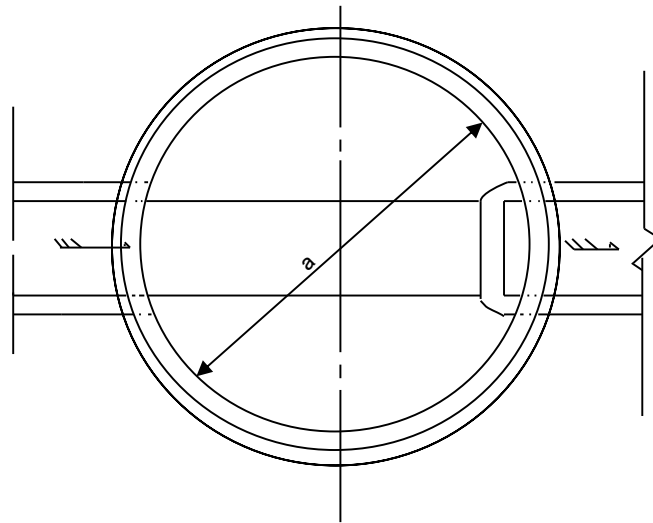
内径又は内のり(cm)	深さ(cm)	会合可能本数
30以上	60以下	3本
35以上	90以下	4本
45以上	120以下	5本
60以上	150以下	5本以上
別途協議	150を超えるもの	

- (5) 外水洗や雨水排水等のどろ溜は、15cm以上とすること。

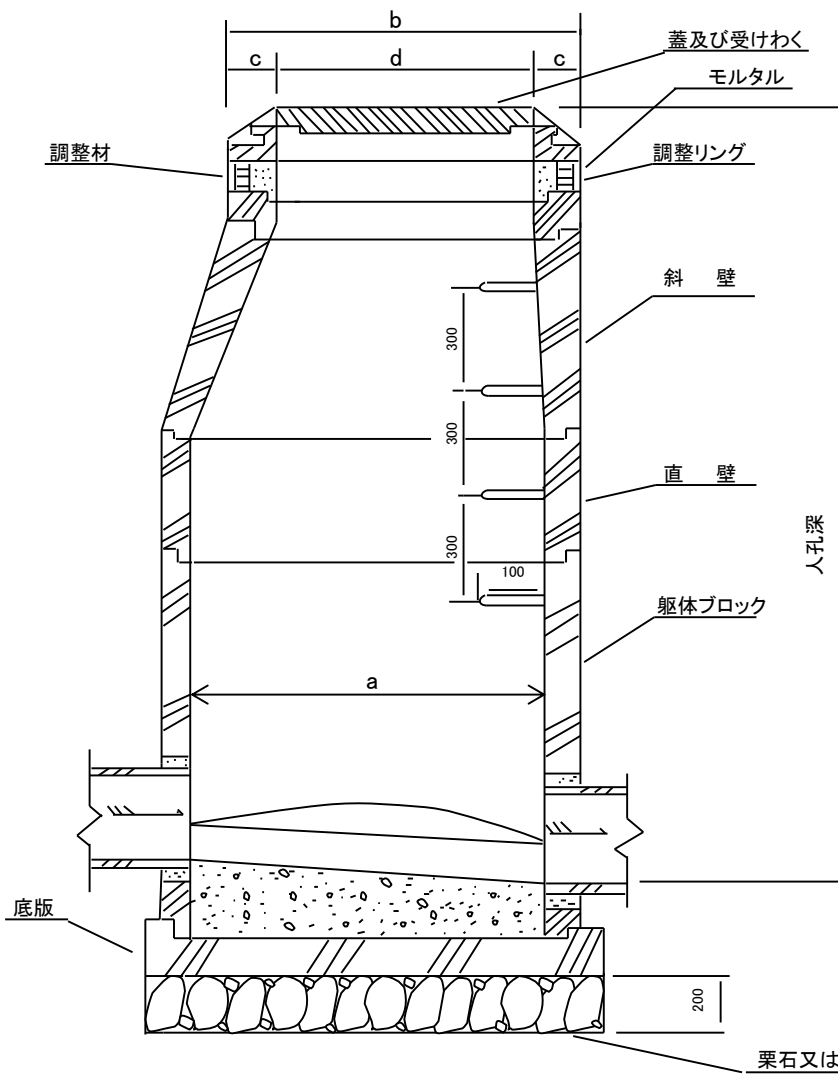
5. その他

- (1) 排水取出し管については、官民境においてその土被りを85cm以上確保しなければならない
- (2) 大型の飲食店や工場、ガソリンスタンド、ディスポーザーシステム等を設置する場合などは下水道法に定める特定事業場、県の定める悪質排水施設に該当する可能性がありますので別途下水道施設課と協議すること。
- (3) φ200mm以上で取出し(本管と同等)を行う場合、割込み人孔を設置してください。また、汚水の取出し管をφ200mm以上で計画する場合、併せて汚水計画排水量を事前に下水道施設課と協議してください。汚水調整槽等の設置をお願いする場合があります。
- (5) 原則として、汚水最終柵並びに汚水取出し管は1宅地に1本としてください。

組立人孔標準構造図



平面図

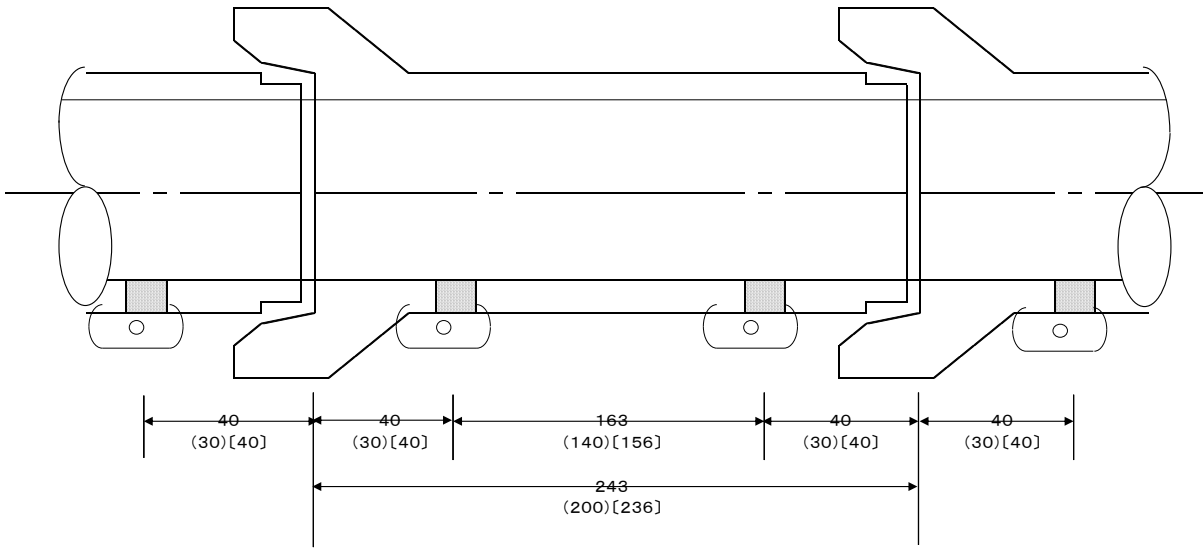


断面図

	寸法表(mm)	
	0号人孔	1号人孔
a	750	900
b	820	820
c	110	110
d	600	600

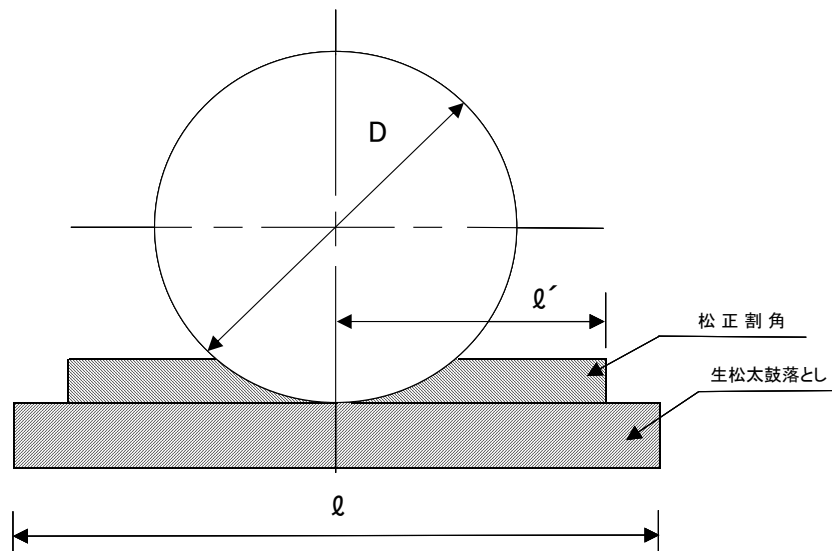
- (注) 1 人孔蓋 ダクタイル鋳鉄製
 2 側塊 直壁 斜壁 JIS A 5317
 3 接続管 内径600mm以下

管 布 設 標 準 図



ま くら 土 台 基 礎 寸 法 表

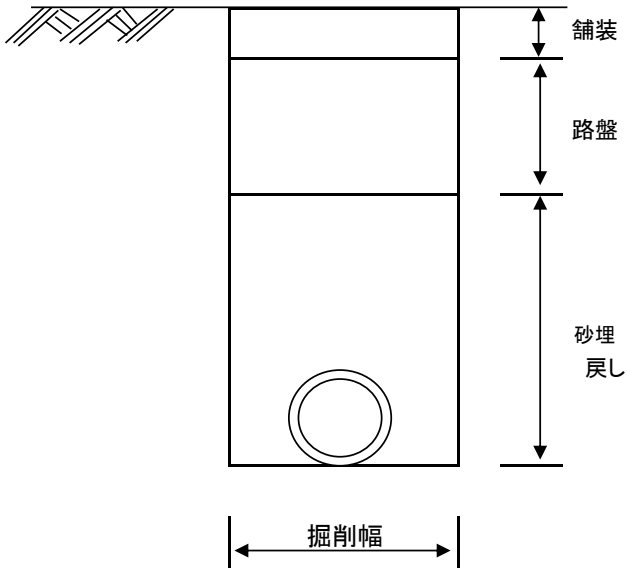
内 径 (D) (mm)	基礎幅 (l) (mm)	くさび材長さ (l') (mm)	適 用
250 ~ 300	450	150	くさび材は片側長
400	450	150	くさび材は片側長
450 ~ 600	600	200	くさび材は片側長
700 ~ 1,000	900	300	くさび材は片側長



ま くら 土 台 材 料 寸 法 表

内 径 (mm)	横 木 材	く さ び 材
	生松太鼓落とし(mm)	松正割 角(mm)
	末 口 仕 上 げ	
250 ~ 350	105 × 75	60 × 60
400 ~ 600	120 × 90	60 × 60
700 ~ 1,350	150 × 120	75 × 75

掘削標準図

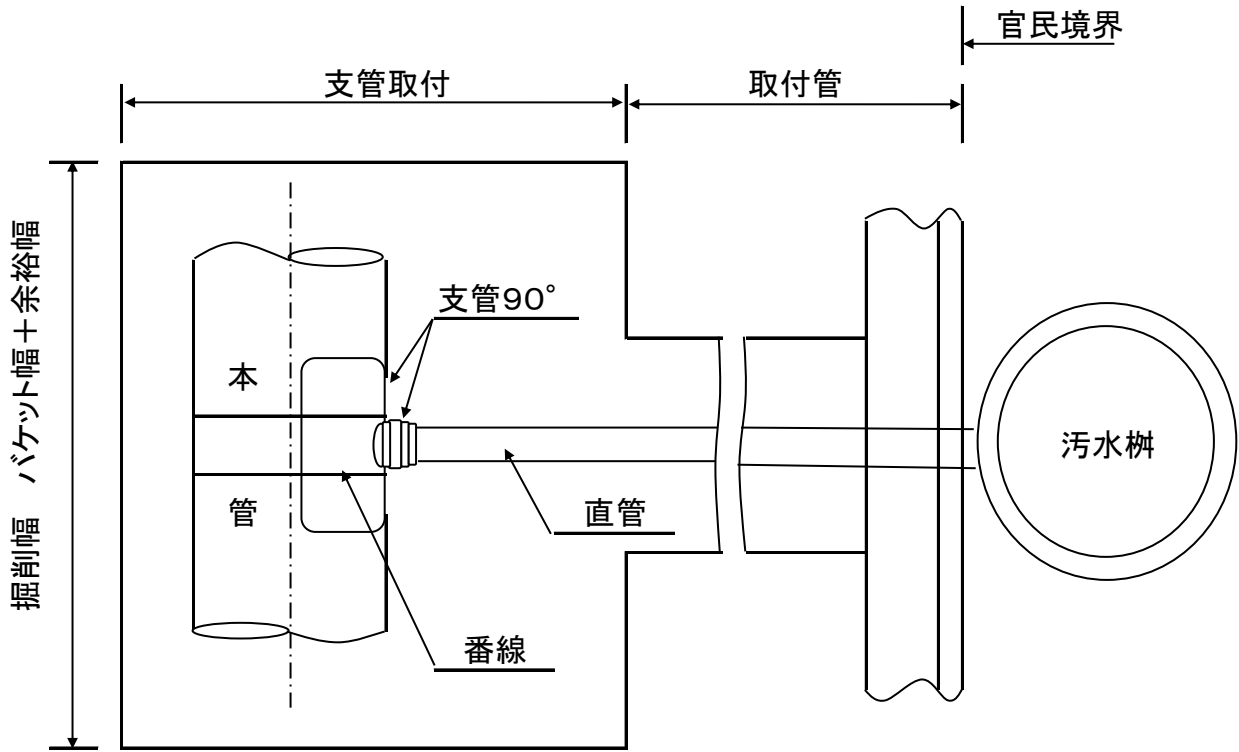


掘削幅寸法表

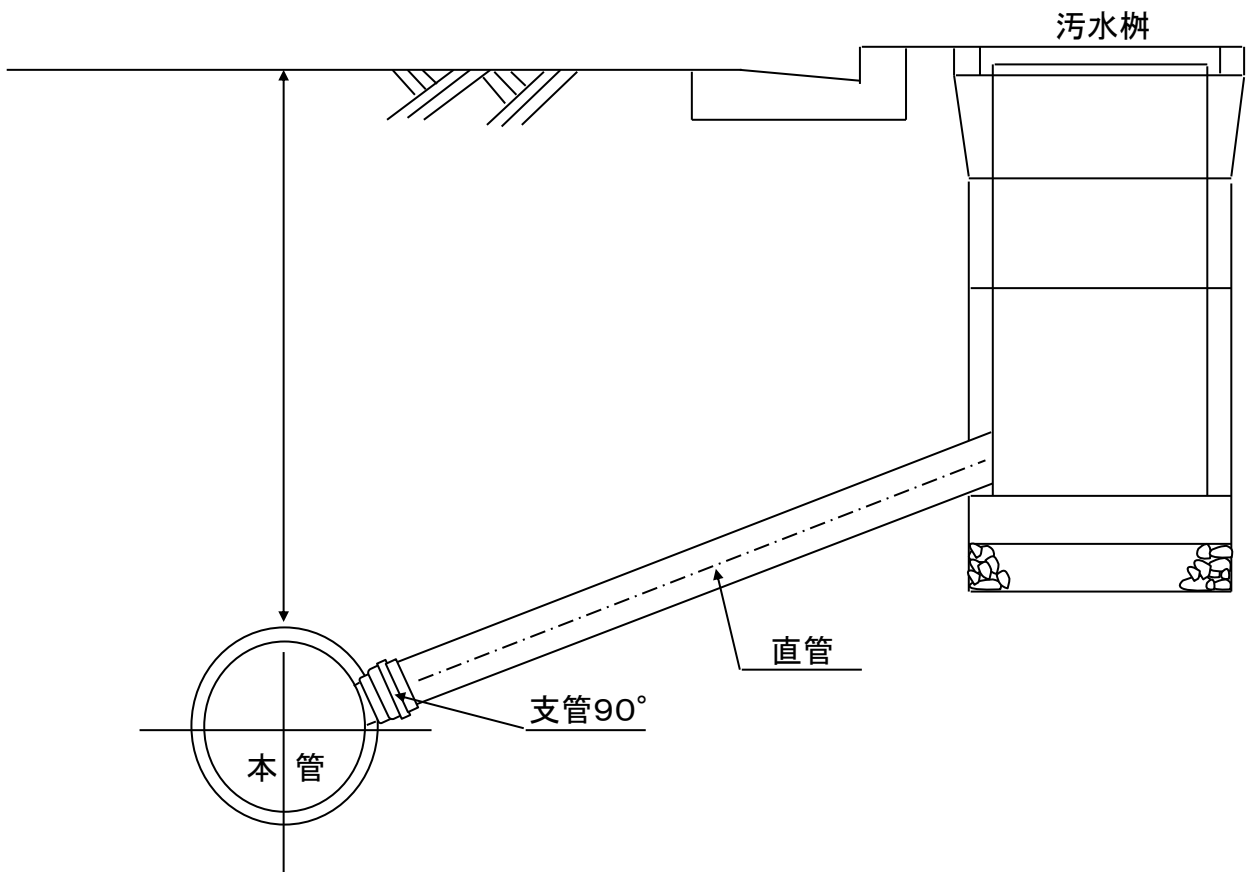
内径(mm)	掘削幅(mm)
250	850
300	900
350	950
400	1,000
450	1,100
500	1,150
600	1,350
700	1,450
800	1,600
900	1,750

汚水取り出し管標準図

平面図

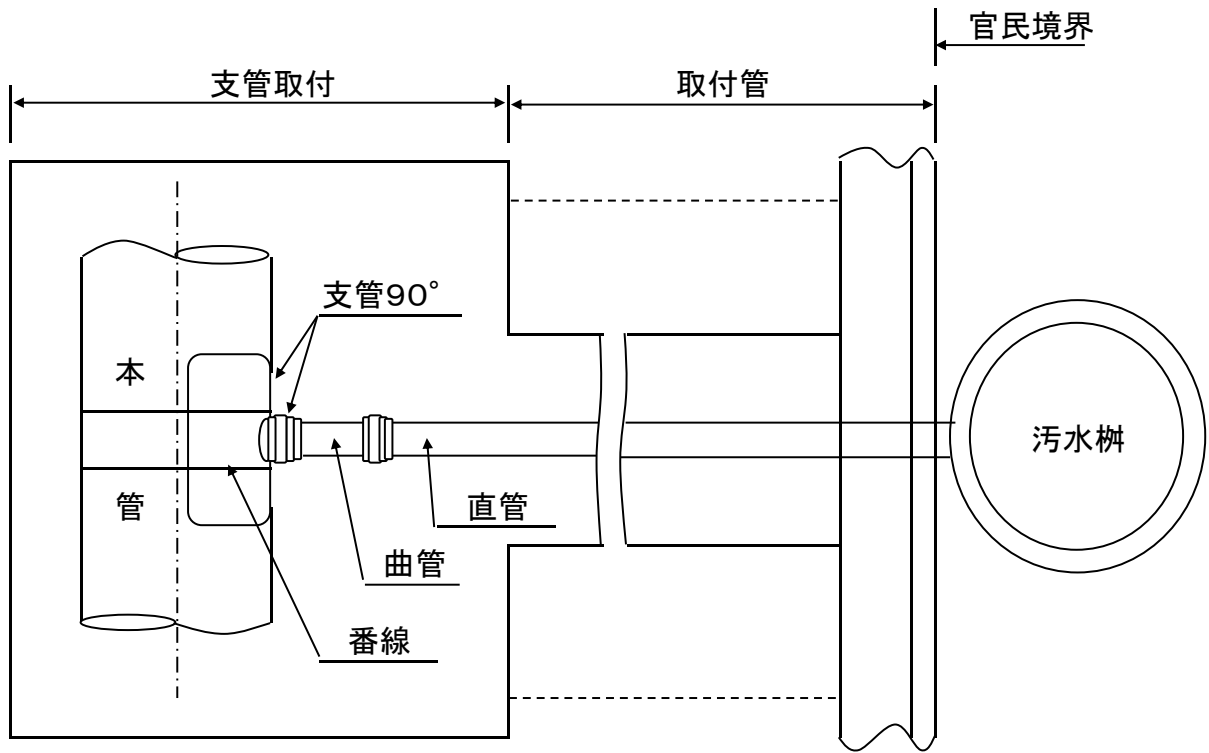


断面図

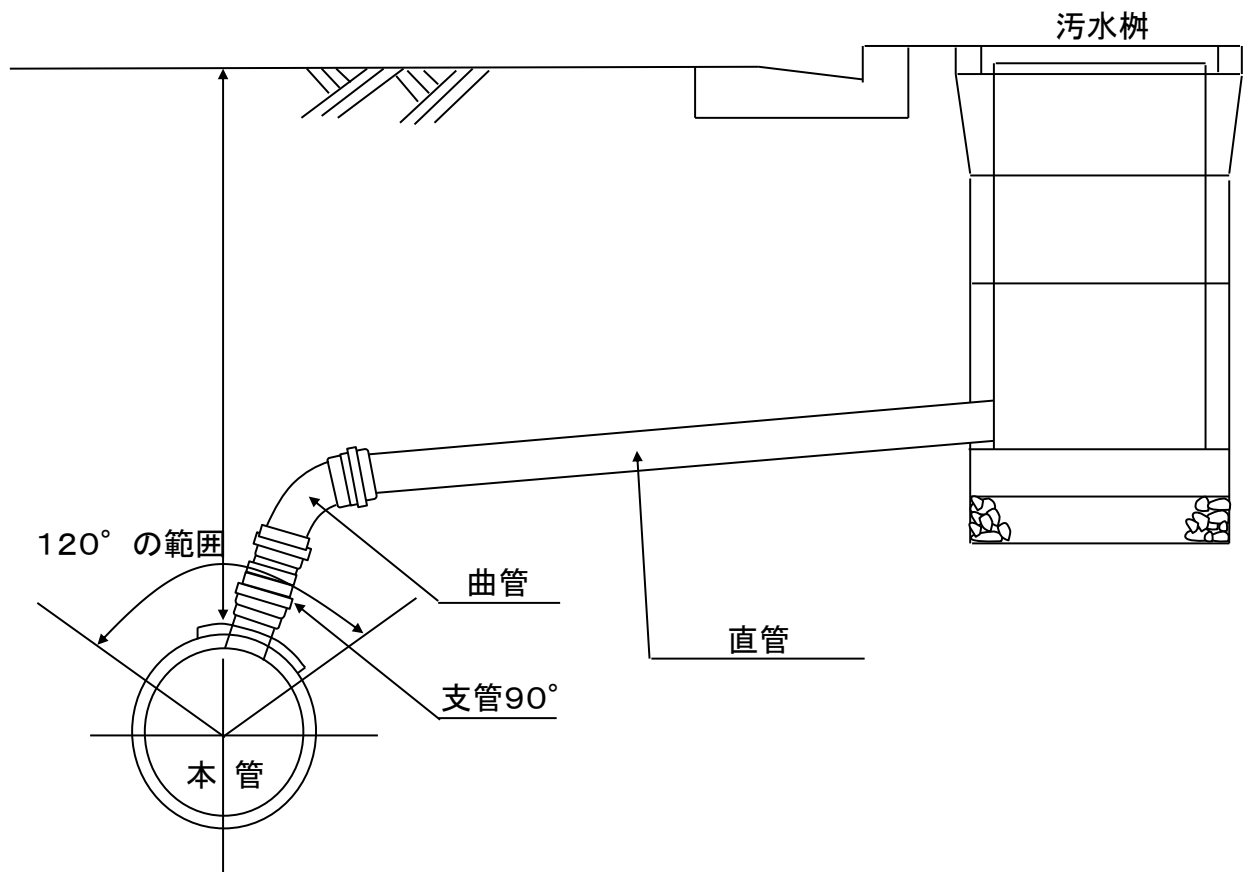


汚水取り出し管標準図

平面図

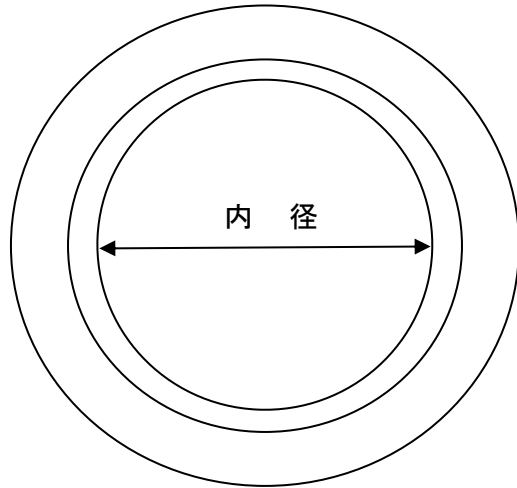


断面図



汚水枳

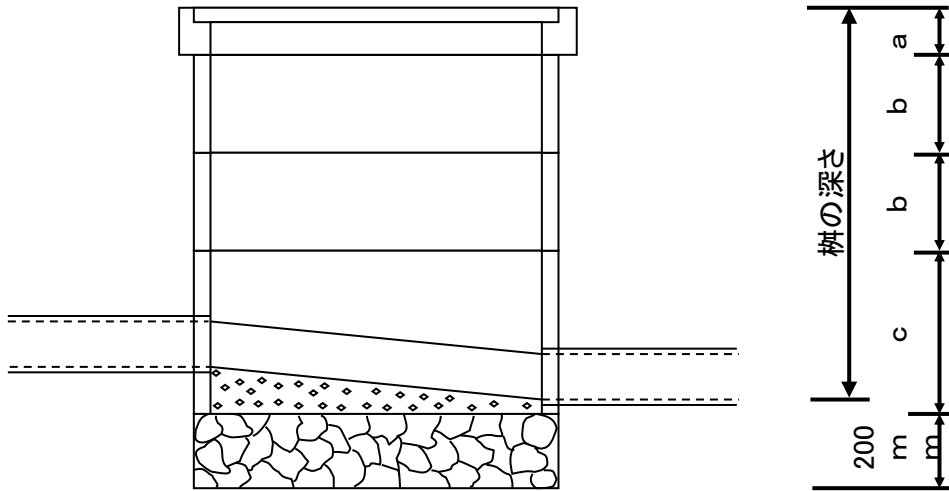
平面図



内径
300
360
400

(単位 mm)

断面図

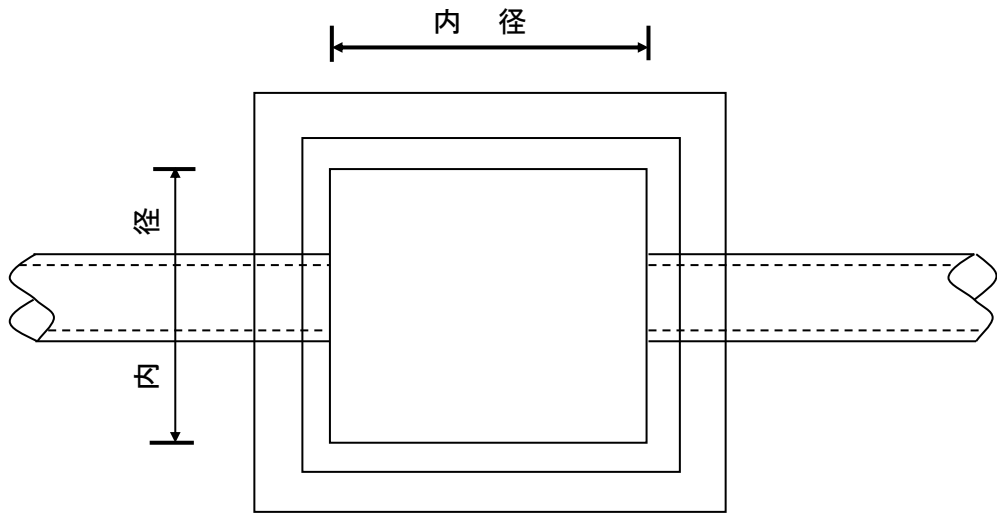


種別		内径		
		300	360	400
受け枠	a	高さ	高さ	高さ
		85	115	200
		150		
側塊	b	200		
		40	40	40
		95	60	60
		150	80	80
		200	200	100
			248	200
側塊	c			400
		200	235	230

(単位 mm)

雨水枥

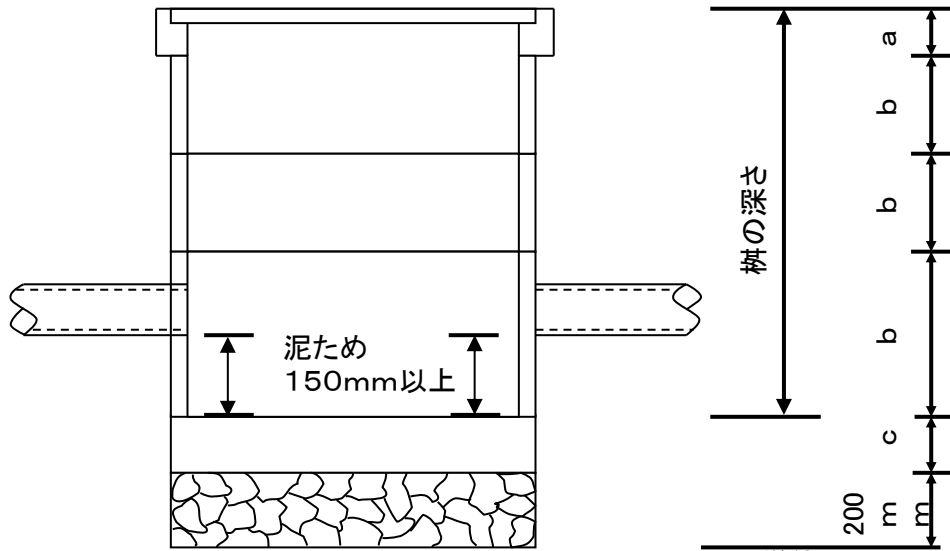
平面図



内径
350
500
700

(単位 mm)

断面図



(単位 mm)

種別		内径		
		350	500	700
受け枠	a	45	50	60
長形 甲	b	150	200	
長形 乙				200
側塊	c	200	200	200
		500	500	500
側塊	d	90	90	180

1. 適用範囲

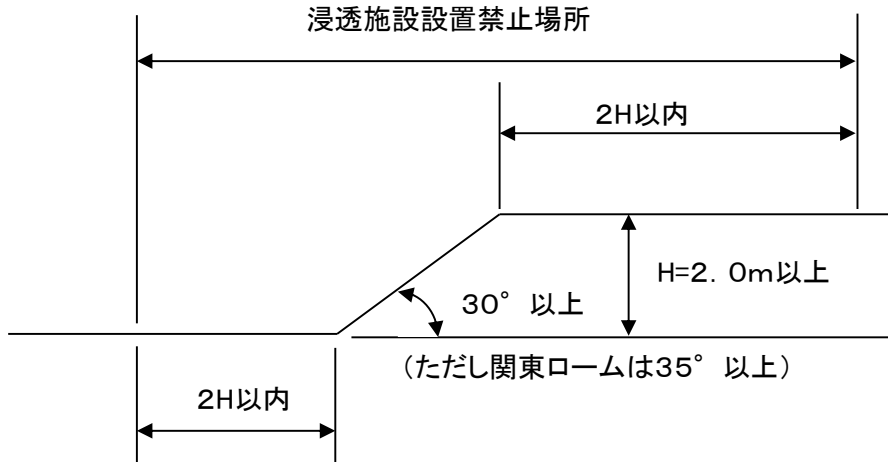
開発面積が500㎡以上10,000㎡未満の場合

2. 検討事項

(1) 施設計画の時

ア) 浸透水によって地すべり又は、崩壊が予想される場所では、雨水浸透による雨水処理計画は適さない。

斜面近傍の設置禁止計画の目安



イ) 雨水浸透施設の見詰まり防止の為、浸透させる水は屋根に降った雨水だけを浸透施設に導くように配管の計画を行う。

なお、路面排水等を浸透処理する場合は、見詰まり及び地下水等に与える影響を事前に調査するとともに、屋根雨水の浸透施設とは別に配管システムを計画すること。

(2) 施工の時

ア) 浸透面の保護に充分注意を払い、浸透能力を損なわないようにする。

イ) 浸透樹及び浸透トレンチの埋戻土がトレンチなどの砕石中に混入しない様に十分注意する。

ウ) 浸透施設流入口への接続箇所には、落葉等の流入を防止する為に網などのスクリーンを設置する。

エ) 浸透施設末端は、最終雨水樹を設置し雨水管に接続する。但し、浸透施設に必要な水深を減ずることのないように注意する。

オ) 浸透トレンチ内に充分雨水が行き渡るようにトレンチ内における透水管の配管に注意する。

カ) 浸透トレンチを会合させる場合には、雨水樹を設置し会合をさせる。

(3) 維持管理

ア) 梅雨、台風シーズン前には、雨水樹のスクリーン等に溜まった落葉等の清掃を行う。

イ) 路面排水等を浸透処理する場合は、見詰まり及び地下水等に与える影響について追跡調査する。

(4) その他

・ 浸透トレンチについて、砕石ではなく既製品による貯留浸透施設を設置しようとする場合は別途協議をお願いします。

浸透トレンチ管施設規模計算書

建築主	住所			
	氏名		TEL	
設計者	住所			
	氏名		TEL	
申請地番		朝霞市		
敷地面積		m^2	主要用途	
建築面積		m^2	構造・規模	造 階

1) 計画水深

1.0m
 1.3m

※どちらかに、チェックをする。

2) 必要な浸透面積(A)

$$\underline{\hspace{2cm}} \text{ m}^2 = \overset{\uparrow}{\hspace{1cm}} \times \overset{\uparrow}{\hspace{1cm}} \text{ヘクタール}$$

敷地面積をヘクタールに換算する。
(1ヘクタール=10,000 m^2)

計画水深が1.0mの場合は334と記入する。
計画水深が1.3mの場合は257と記入する。

3) 必要なトレンチ管の長さ

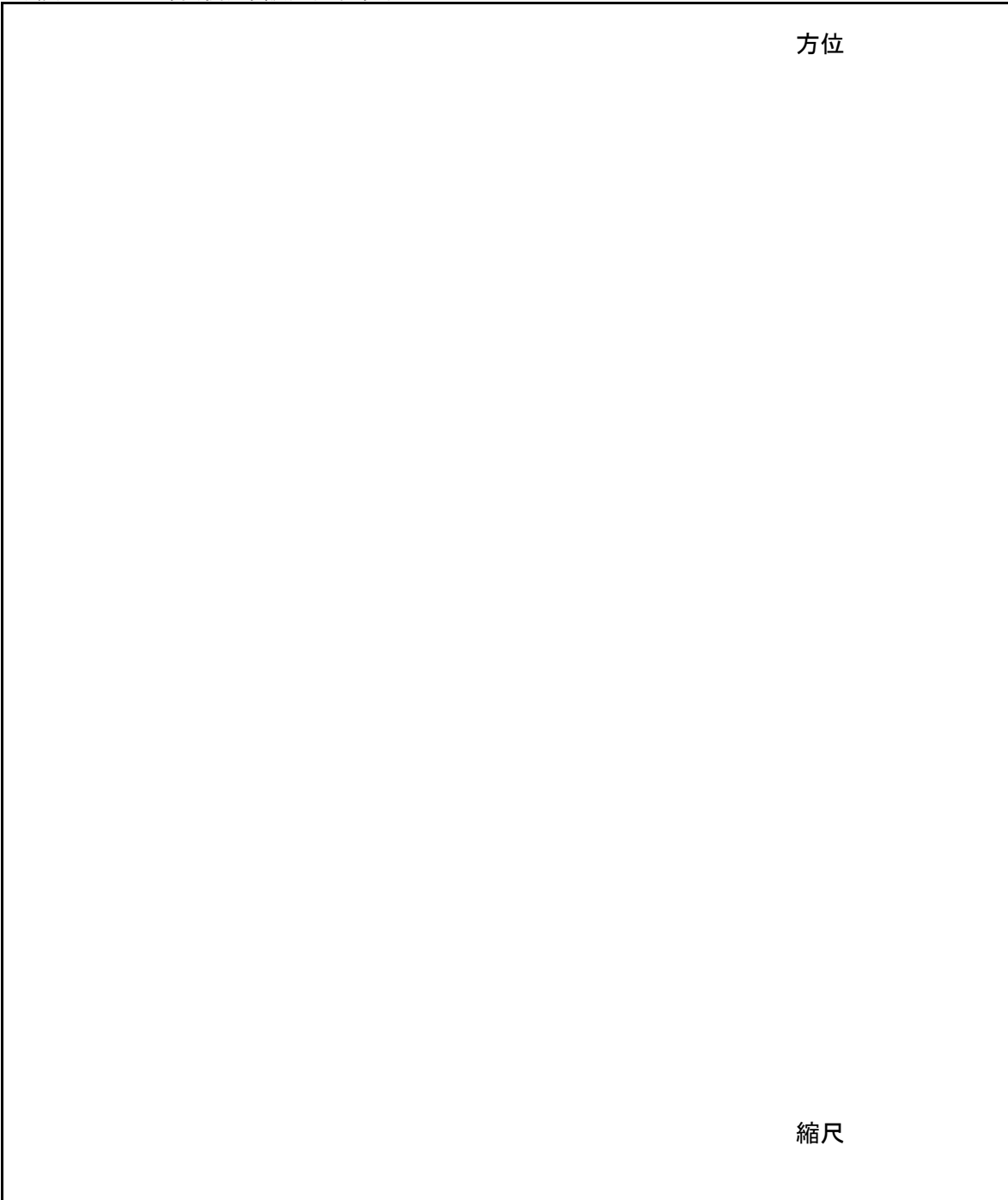
$$\underline{\hspace{2cm}} \text{ m} = \frac{\overset{\downarrow}{\hspace{1cm}} \text{ m}^2 - \overset{\downarrow}{\hspace{1cm}} \text{ m}^2}{\text{トレンチ幅}}$$

必要な浸透面積(A) 浸透柵がある場合は底面積の合計

4) ① 布設する浸透トレンチ管の長さ $\frac{\text{必要なトレンチの長さ}}{\text{必要トレンチの長さ}} \text{ m}$

② 布設する浸透柵の1個当たりの底面積 $\frac{\text{合計}}{\text{個}} \text{ m}^2$

5) 浸透トレンチ管(柵)布設計画位置図

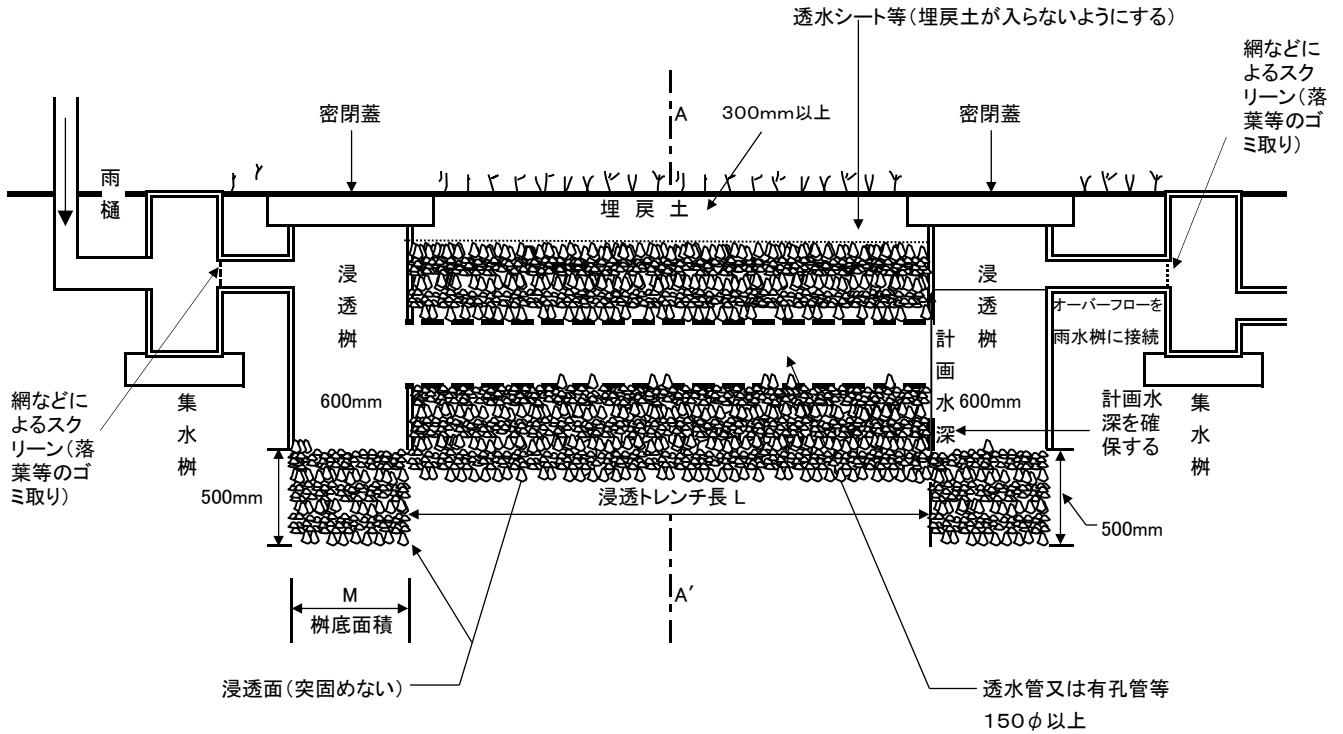


※トレンチ柵の大きさ及び深さ、トレンチ管の延長及び管径記入のこと。

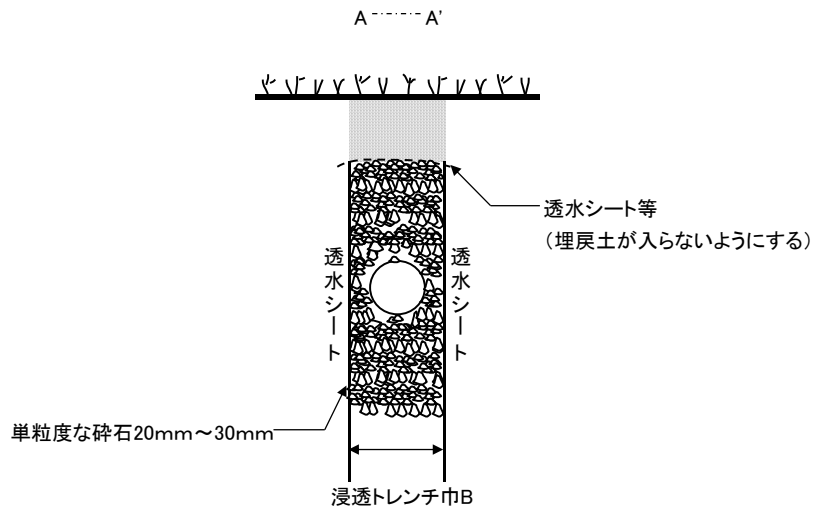
地下浸透雨水処理法

ローム層での雨水処理法

一般構造図



浸透レンチ断面図



第4章 上水道の技術基準

上水道施設

1. 共通事項

- (1) 布設する配水管及び給水管の口径・管種については、水道法に基づく構造及び材質とし、詳細は別途協議するものとする。
- (2) 配水管から分岐する給水管の布設位置は、建築物の配置を十分考慮して決定し、メーターについては、検針及び交換に際して支障のない位置に取り付けるものとし、戸建てについては、境界から約2 m以内、中高層建築物等は各戸付近に取り付けるものとする。
- (3) 配管は市の標準配管図を参考に配管すること。
- (4) 水道利用加入金及び手数料は朝霞市水道事業給水条例（以下「給水条例」という）に定める額とする。
- (5) 使用しない既存の給水管は、撤去するものとする。
（サドル分水栓止及び分岐元止水とする）

2. 増圧給水設備

- (1) 増圧給水設備は、水道法に基づく給水装置の構造と材質に適合したもので、次の条件を満たすものでなければならない。
 - ① 共同住宅の世帯数はファミリータイプ50戸、ワンルームタイプ95戸までとする。
 - ② 1日最大給水量50 m³以下で、同時使用水量261ℓ/分以下とする。
 - ③ 日本水道協会規格「水道用直結加圧形ポンプユニット（JWWAB130）」または、同等以上の性能を有するものとする。
- (2) 増圧給水において、分岐が可能な配水管は口径75 mm以上とし、分岐する給水引き込み管は配水管の2ランク以下とする。
- (3) 詳しくは、「朝霞市直結給水システム実施基準」を参考にしてください。

3. 受水槽

- (1) 受水槽を設置し、各戸の検針及び徴収を市に委託する建築物。
 - ① 中高層建築物等の認定を受け、市と契約を締結しなければならない。
 - ② 親メーターは貸与するものとする。
 - ③ 子メーター取り付け場所の大きさは、縦60 cm程度・横60 cm程度で奥行きは45 cm程度とする。なお、開口扉はメーターの検針及び交換に際して支障のない大きさにすること。
 - ④ ポンプが故障した際の非常用として、共用栓または、散水栓を直結メー

ターで設置しなければならない。

(2) 容量・引込口径

①共同住宅における受水槽容量は、計画一日使用水量の2分の1を有効に確保するものとする。計画一日使用水量の算定については、一人一日使用水量（260ℓ）×使用人員とし、使用人員の策定基礎は、「建築物の用途別による、し尿浄化槽の処理対象人員算定基準（JISA3302-2000）」によるものとする。

（例 延床面積70㎡×0.05＝3.5人 3.5人に満たないとき3.5人とする。ただし、上限を6人とします。）

なお、ワンルーム（1K・1DK）形式で延床面積25㎡未満については1.5人とし、25㎡以上は2人とする。

②共同住宅以外の用途については、日本水道協会発行の「水道施設設計指針」等を参考にすると共に、当該建築物の規模や用途を十分考慮して決定するものとする。

③引き込み口径と親メーターの口径は下記の表に定めたものとする。

受水槽の有効容量（m ³ ）	引き込み口径（mm）	メーター口径（mm）
1.3未満	25	20
1.3以上1.6未満	30	25
1.6以上2.8未満	40	30
2.8以上5.6未満	40	40
5.6以上	別途計算	別途計算

(3) 施工

①受水槽に取り付けるボールタップは、流量調整器付としなければならない。

②受水槽以下の配管についても、水道法施行令（昭和32年政令第336号）第5条に規定する給水装置の構造及び材質の基準に適合するものとする。

③配管は、凍結時に備え必要な保温を施すものとし、系統ごとに表示しなければならない。

④系統別にバルブを取り付けると共に、子メーター上流部にメーター用ボール止水栓（伸縮型）、下流部にメーター用ボール逆止弁（伸縮型）を取り付けなければならない。

⑤水圧テストと十分な洗管を行い、子メーターを取り付けるものとする。

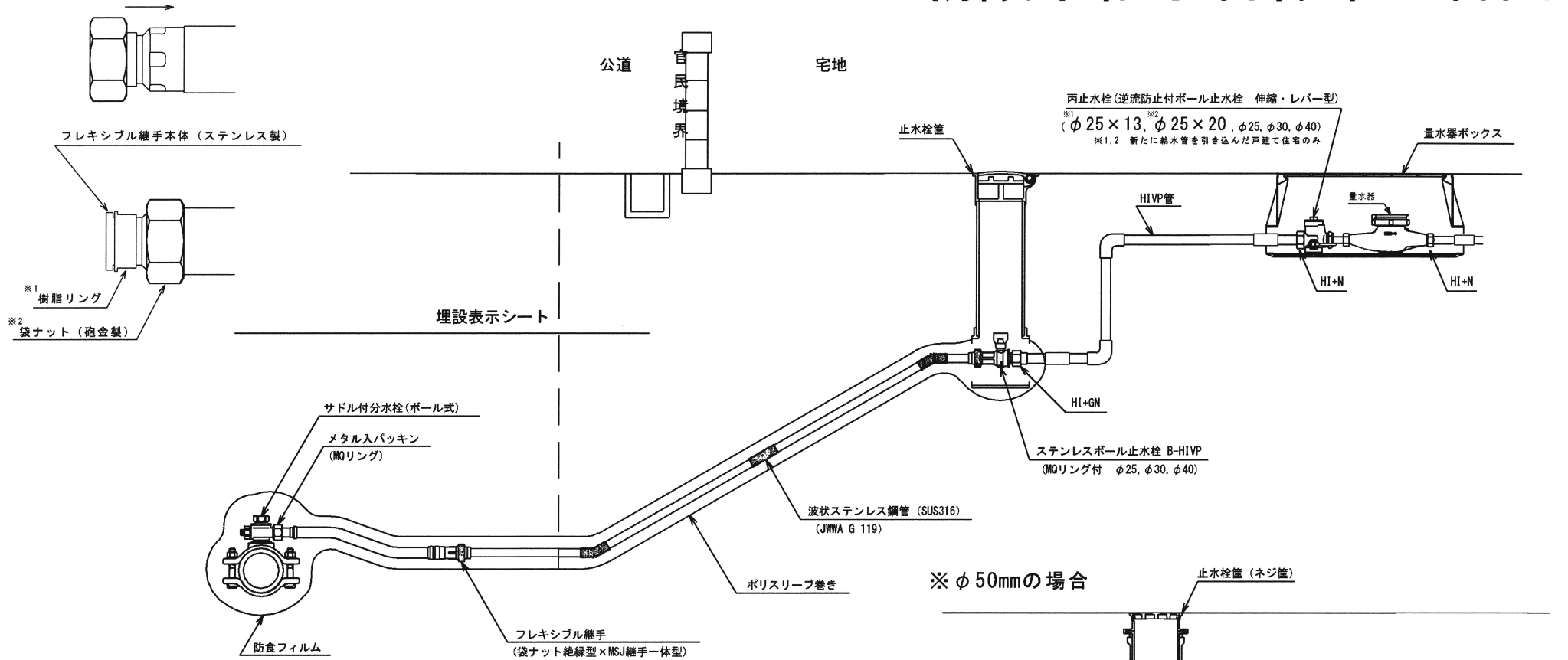
4. 管理

- ①共同住宅の設置者はポンプ設備等がある場合は、故障した際の対処方法について、予め入居者及び管理者等に周知しておかなければならない。
- ②ビル・マンション及び学校等に設けられた受水槽（10 m³超）などの給水施設は「簡易専用水道」として水道法の適用を受けています。その設置者の方は、常に安全で衛生的な飲み水を確保するために年一回定期的に検査を受けなければなりません。
また、10 m³以下の小規模受水槽についても、給水条例施行規程により受水槽の清掃と水質等の検査を年一回受けるようになっています。

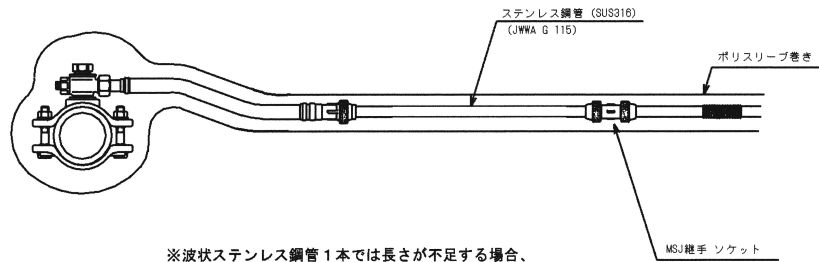
⚠ サドル付分水栓は従来通り砲金製のものを使用します。
 異種金属接触腐食防止のため、フレキシブル継手のサドル付分水栓側の袋ナットが砲金製であること、
 袋ナット内側に絶縁のための樹脂リングが入っていることを必ず確認してください。

※1.2 袋ナットと絶縁リングが一体となっている製品もあります。

朝霞市給水管標準配管図

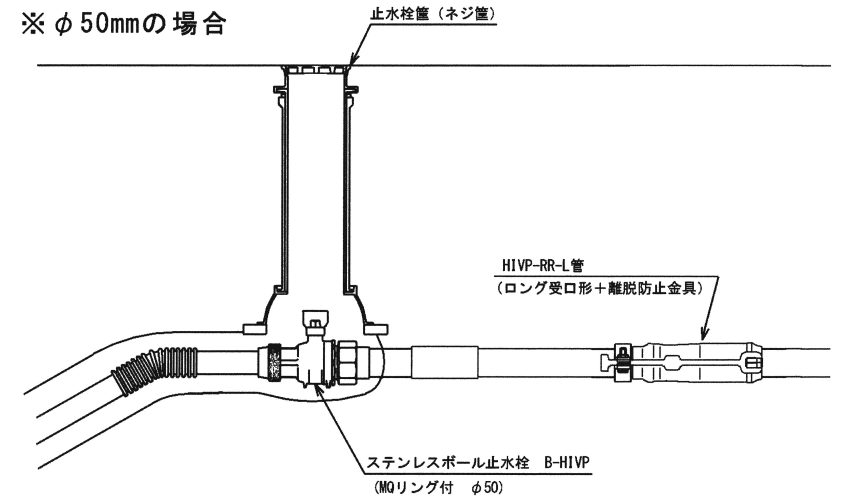


※鉄管からの分岐の場合、サドル付分水栓に密着コアを施工してください。



※波状ステンレス鋼管1本では長さが不足する場合、
 フレキシブル継手側はステンレス鋼管(直管)でも構いません。

※φ50mmの場合



※離脱防止金具は全箇所施工してください。

⚠ ステンレス鋼管の接合部は、すべて溝付け用ワンタッチ方式の伸縮可とう式継手にて施工を行ってください。